サイト名:名古屋市緑市民病院　　*評価URL:https://www.med-junseikai.or.jp/midori/*　　*評価者:*

達成基準		適合レベル	タイプ	テスト方法 （miCheckerの結果とテスト方法を参考に検証を実施します。 検証箇所は多くの場合複数存在します。）	適合	適用	特記事項	01:トップページ	02:当院のご案内	03:基本理念	04:病院長挨拶	05:夕診・土曜診/救急診療	06:入院に必要なもの	07:内科	08:看護部教育理念	09:臨床検査科	10:緑市民病院通信	11:医師採用情報	実装チェックリストの例(WAIC):該当箇所 （＊注
番号	達成方法																		
1	**知覚可能**																		
1.1	**全ての非テキストコンテンツには、拡大印刷、点字、音声、シンボル、平易な言葉などの利用者が必要とする形式に変換できるように、代替テキストを提供する。**																		
1.1.1	**非テキストコンテンツ:** 利用者に提示される全ての非テキストコンテンツには、同等の目的を果たす代替テキストが提供されている。ただし、次の場合は除く a) コントロール及び入力、b)時間依存メディア、c) テスト、d) 感覚的、e) CAPTCHA、f) 装飾、整形及び非表示	A		例外事項の補足: a) 目的を説明する識別名がある。 b) 非テキストコンテンツを識別できる説明がある。 c) 代替テキストを与えると試験にならない場合は、それを識別できる説明がある。 d) フルートのソロ演奏や視覚芸術などには、それを識別できる説明がある。 e) 他の感覚による知覚に対して出力する代替形式を提供している。 f) 装飾等の為の非テキストコンテンツは支援技術が無視できる。															
H37	img 要素の alt 属性を用いる	A	問題あり	img要素で表示している画像に代替テキストがありません。画像には代替テキストを付ける必要があります。代替テキストの内容の適切さはG94で評価してください。	○														1.1.1-状況A-項番1
H35	applet 要素に代替テキストを提供する	A	問題あり 手動確認	applet要素に代替テキストがありません。appletのbodyに内容を説明するテキストを配置するなど検討してください。	○														1.1.1-状況A-項番2
H53	object 要素のボディに代替テキストを記述する	A	問題あり 要判断箇所	object要素を用いている場合は代替テキストを設けてください。(objectのbodyに内容を説明するテキストをおくなど)	○														1.1.1-状況A-項番3, 状況B-項番1
H24	イメージマップの area 要素に代替テキストを提供する	A	問題あり	area要素にリンクを説明するテキストがありません。テキストの内容の適切さはG91で評価してください。	○														1.1.1-状況A-項番4
G94	非テキストコンテンツに対して、それと同じ目的を果たし、同じ情報を提供する、簡潔な代替テキストを提供する	A	問題あり 問題の可能性大 要判断箇所	要判断と検出された箇所は、代替テキストが適切ではない可能性があります。「注記:代替テキストの適切さを判断する方法」に従って判断してください。 http://waic.jp/docs/jis2010-test-guidelines/201211/icl-7.1.1.1.html (最下段) それ以外の問題の検出の無い部分についても、代替テキストの適切さを、次のような方法で評価してください。 1. miCheckerの音声ユーザビリティ視覚化モードでテキストの内容を目視で確認する。 2. 音声ブラウザなどの支援技術を使い読み上げて確認する。 3. 一般的なブラウザで、対象にマウスを当てて吹き出しを表示して確認する。 4. ブラウザの設定で、「画像を表示せず」、「代替テキストを展開する」の設定にして表示する。 表記の適切さについては「注記:代替テキストの適切さを判断する方法」 http://waic.jp/docs/jis2010-test-guidelines/201211/icl-7.1.1.1.html に従ってください。全ての箇所において適切であることを確認したら適合です。一つでも問題がある場合は不適合です。	○														1.1.1-状況A-項番5
H2	隣り合った画像とテキストリンクを同じリンクの中に入れる	A	問題あり 要判断箇所	問題あるいは要判断箇所と検出された箇所では、隣り合った画像とテキストリンクは同じリンクの中に入れてください。画像の代替テキストはテキストリンクと冗長にならないように、空の代替テキストを入れるなどします。	○														1.1.1-状況A-項番6
H86	ASCII アート、顔文字、及びリート語に代替テキストを提供する	A	問題の可能性大	一般的なブラウザでASCIIアート、絵文字、リート語などが用いられているところを探してください。次に、その部分が支援技術などで、負担なく通過可能かどうかを確認してください。たくさんキーを押さないといけないなど、大きな負担がある場合は、スキップなどの仕組みが必要です。そのような場合はさらに、その部分の内容を知らせる代替テキストが前後にあることが求められます。	○														1.1.1-状況A-項番7
H30	a 要素のリンクの目的を説明するリンクテキストを提供する	A	問題あり 問題の可能性大 要判断箇所	a要素にリンクを説明するテキスト(代替テキストを含む)がありません。適切なテキストを与えて下さい。内容についてはG91で評価してください。	○														1.1.1-状況A-項番8
G196	画像のグループにある一つの画像に代替テキストを提供して、そのグループのすべての画像を説明する	A	手動確認	miCheckerの音声ユーザビリティ視覚化モードで、複数の画像がグループをなしている部分を探し、その部分に冗長な代替テキストがついていないかを確認してください。	○														1.1.1-状況A-項番9
G92	非テキストコンテンツに対して、それと同じ目的を果たし、同じ情報を提供する長い説明を提供する	A	手動確認	miCheckerの音声ユーザビリティ視覚化モードで次の二点を確認してください。 1.著しく長い代替テキストがある場合は不適合です。 2.短すぎて代替コンテンツとして役割を果たしていない場合は、短い説明の中で長い説明のある場所を示す(G74)か、該当する非テキストコンテンツのすぐ隣に長い説明へのリンクがあるかどうか確認してください。(G73)いずれも用意されていない場合は不適合です。	○														1.1.1-状況B-項番1
G74	短い説明の中で長い説明のある場所を示して、非テキストコンテンツの近くにあるテキストで長い説明を提供する	A	手動確認	miCheckerの音声ユーザビリティ視覚化モードで代替コンテンツの内容を確認します。短すぎて代替コンテンツとして役割を果たしていない場合は、短い説明の中で長い説明のある場所を示します。かつ、その長い説明がそのすぐに近くにあれば適合です。	○														1.1.1-状況B-項番1
G73	非テキストコンテンツのすぐ隣に別の場所へのリンクを置き、その別の場所で長い説明を提供する	A	手動確認	miCheckerの音声ユーザビリティ視覚化モードで代替コンテンツの内容を確認します。短すぎて代替コンテンツとして役割を果たしていない場合は、その非テキストコンテンツのすぐ隣に長い説明へのリンクを設けていれば適合です。実際にクリックして確認してください。	○														1.1.1-状況B-項番1
G82	非テキストコンテンツの目的を特定する代替テキストを提供する	A	要判断箇所	非テキストコンテンツに対する代替テキストが十分かどうかを確認してください。	○														1.1.1-状況C-項番1
H36	送信 / 実行ボタンとして用いる画像の alt 属性を使用する	A	問題あり	指摘箇所の画像にはボタンの意味を表す代替テキストが必要です。	○														1.1.1-状況C-項番1
H44	label要素を用いて、テキストのラベルとフォーム・コントロールを関連付ける	A	問題あり 問題の可能性大 要判断箇所	フォーム・コントロールがテキストのラベルと関連付けられていません。ラベルの使用が困難なフォーム・コントロールがある場合はH65に従います。	○														1.1.1-状況C-項番2-a
H65	label要素を用いることができないとき、title属性を用いてフォーム・コントロールを特定する	A	問題あり 要判断箇所	ラベルに相当するものが画面に表示されていない場合、あるいは、郵便番号のようにフォーム・コントロールが連続しているためlabel要素を用いることができない場合は、title属性を用いてフォーム・コントールを特定します。H44に従うことが可能な場合は、H44を優先します。	○														1.1.1-状況C-項番2-b
G68	コンテンツの内容が分かるラベルを提供し、ライブの音声しか含まないコンテンツ及びライブの映像しか含まないコンテンツの目的を説明する	A	手動確認	ライブ音声しか含まないコンテンツ、あるいはライブ映像しか含まないコンテンツがある場合は、そのコンテンツが見えない、あるいは聞こえないとしても、何のコンテンツであるかが分かるようなラベル等が提供されているかを、miCheckerの音声ユーザビリティ視覚化モードあるいは支援技術を利用して確認してください。	○	-		該当するコンテンツなし	該当するコンテンツなし	該当するコンテンツなし	該当するコンテンツなし	該当するコンテンツなし	該当するコンテンツなし	該当するコンテンツなし	該当するコンテンツなし	該当するコンテンツなし	該当するコンテンツなし	該当するコンテンツなし	1.1.1-状況D-項番1
G100	非テキストコンテンツの一般に認められた名前又は内容が分かる名前を提供する	A	手動確認	写真などのコンテンツを表示する仕組みがある場合、そのコンテンツそのものを見ることができなくとも、何のコンテンツであるかが分かるような代替テキスト等が提供されているかを、miCheckerの音声ユーザビリティ視覚化モードあるいは支援技術を利用して確認してください。	○														1.1.1-状況D-項番1
G143	代替テキストを提供して、CAPTCHAの目的を説明する	A	手動確認	CAPTCHAが認証手段等のために用いられている場合は、そのCAPTCHAの目的を代替テキストで示しているかどうかを、miCheckerの音声ユーザビリティ視覚化モードあるいは支援技術を利用して確認してください。	○	-		該当するコンテンツなし	該当するコンテンツなし	該当するコンテンツなし	該当するコンテンツなし	該当するコンテンツなし	該当するコンテンツなし	該当するコンテンツなし	該当するコンテンツなし	該当するコンテンツなし	該当するコンテンツなし	該当するコンテンツなし	1.1.1-状況E-項番1
G144	同じ目的を果たす、異なる感覚モダリティを用いたもう一つのCAPTCHAがウェブページにあることを確認する	A	手動確認	CAPTCHAが認証手段等のために用いられている場合は、異なるモダリティ(例:オリジナルが視覚によるものならば音声による方法)で目的を達成できるようなページが用意されていることを、miCheckerの音声ユーザビリティ視覚化モードあるいは支援技術で実際に操作して確認してください。	○	-		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	1.1.1-状況E-項番1
H67	支援技術が無視すべき画像の img 要素で、alt属性値を空にして、title 属性を付与しない	A	問題あり	支援技術が無視すべき画像(イラストやデザインの調整の目的で配置されているような画像)の場合はalt=""(空)とします。また、title属性も用いないでください。半角スペース1個はnull(空)と見なされます。 null以外の設定のある代替テキストについては、それが正しいかどうかはG94で評価します。	○														1.1.1-状況F-項番1
C9	CSS を用いて、装飾目的の画像を付加する	A	手動確認	miCheckerの音声ユーザビリティ視覚化モードで表示した場合、重要な画像が失われていないことを確認してください。もし、そうした画像があっても、それが、スタイルシートによって提供されている画像の場合は、本項目は不適合となります。(CSSで表示する画像には代替テキストが付けられません。)	○			CSSで表示されている画像は装飾目的だけに用いられている。	CSSで表示されている画像は装飾目的だけに用いられている。	CSSで表示されている画像は装飾目的だけに用いられている。	CSSで表示されている画像は装飾目的だけに用いられている。	CSSで表示されている画像は装飾目的だけに用いられている。	CSSで表示されている画像は装飾目的だけに用いられている。	CSSで表示されている画像は装飾目的だけに用いられている。	CSSで表示されている画像は装飾目的だけに用いられている。	CSSで表示されている画像は装飾目的だけに用いられている。	CSSで表示されている画像は装飾目的だけに用いられている。	CSSで表示されている画像は装飾目的だけに用いられている。	1.1.1-状況F-項番2
G95	非テキストコンテンツの簡単な説明を提供する、簡潔な代替テキストを提供する	A	手動確認	非テキストコンテンツに簡単な説明の代替テキストがあるか確認します。	○														
H45	longdesc 属性で指定されたURIの適切性	A	問題の可能性大 要判断箇所	問題ありと検出された箇所は、longdescが使われていますが、正しいURIが設定されているか確認してください。あるいは、代替テキストの文字列が長すぎる場合はlongdescを用いることなど検討すべきです。 何も検出されていなくとも、longdescが用いられている場合には、altよりも細かな説明が提供されていることを確認してください。longdescはソースを開き、テキストサーチするなどして探してください。	○	-		非適用とする。	非適用とする。	非適用とする。	非適用とする。	非適用とする。	非適用とする。	非適用とする。	非適用とする。	非適用とする。	非適用とする。	非適用とする。	
F30	代替ではない代替テキストを用いている(例:ファイル名、プレースホルダー・テキストなど)	A	問題あり 問題の可能性大	画像あるいはarea要素のalt属性として不適切な文字を含んでいる可能性があります。もし、読み上げる必要が無い場合にはalt=""としてください。 この項目が不適合の場合は、G94も不適合としてください。	○														
F38	HTMLで装飾を目的にして用いられている非テキストコンテンツのalt属性を省略している	A	問題あり	装飾目的のapplet/img要素であるならば、空の属性(alt="")を与えてください。 この項目が不適合の場合は、H35あるいはH37が不適合になります。	○														
F65	img要素、area要素、及び type "image" のinput要素のalt属性を省略している	A	問題あり	img要素、area要素、及び type "image" のinput要素のalt属性がありません。必ず、alt属性を用いて下さい。	○														
	(達成方法を追加する場合、ここに追加してください。)																		
1.2	**時間依存メディアには代替コンテンツを提供する。**																		
1.2.1	**音声だけ及び映像だけ(収録済み):** 収録済みの音声しか含まないメディア及び収録済みの映像しか含まないメディアは、次の事項を満たしている。ただし、その音声又は映像がメディアによるテキストの代替であって、メディアによる代替であることが明確にラベル付けされている場合は除く。a) 収録済みの音声しか含まない場合	A		例外事項の補足: テキストで提供されている部分があり、それを代替するため(文字情報よりも音声や映像の方が理解しやすい人のために)用意された、音声あるいは映像しか含まないメディア、かつ、それが代替メディアであることが明確にラベル付けされている場合は除きます。															
G158	時間の経過に伴って変化するメディアの音声しか含まないコンテンツに対して代替コンテンツを提供する	A	要判断箇所 手動確認	音声のみのコンテンツ(podcastなど)がある場合、その会話の内容を書きだしたものや、説明したものが提供されていれば適合です。何も提供されていない場合は不適合です。	○	-		音声及び映像コンテンツ無し 同上	音声及び映像コンテンツ無し 同上	音声及び映像コンテンツ無し 同上	音声及び映像コンテンツ無し 同上	音声及び映像コンテンツ無し 同上	音声及び映像コンテンツ無し 同上	音声及び映像コンテンツ無し 同上	音声及び映像コンテンツ無し 同上	音声及び映像コンテンツ無し 同上	音声及び映像コンテンツ無し 同上	音声及び映像コンテンツ無し 同上	1.2.1-状況A-項番1-a
G159	時間の経過に伴って変化するメディアの映像しか含まないコンテンツに対して代替コンテンツを提供する	A	要判断箇所	動画のみのコンテンツがある場合、その内容を説明したものが提供されていれば適合です。何も提供されていない場合は不適合です。	○	-		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	1.2.1-状況B-項番1-a
G166	重要な映像コンテンツを説明する音声を提供する	A	要判断箇所	動画のみのコンテンツがあり、その内容が重要なものであると判断される場合は、それを音声で説明したコンテンツがあることを確認してください。提供されていれば適	○	-		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	1.2.1-状況B-項番1-a
	(達成方法を追加する場合、ここに追加してください。)																		

1.2.2	**キャプション（収録済み）：** 同期したメディアに含まれている全ての収録済みの音声コンテンツに対して、キャプションが提供されている。ただし、その同期したメディアがメディアによるテキストの代替であって、メディアによる代替であることが明確にラベル付けされている場合は除く	A		例外事項の補足: テキストで提供されている部分があり、それを代替するために（文字情報よりも音声や映像の方が理解しやすい人のために）用意された、同期したメディアである場合、かつ、それが代替メディアであることが明確にラベル付けされている場合は除きます。 追加の補足： どの達成方法の組み合わせで達成させるかを予め把握し、それらの達成方法が適															
G93	オープン・キャプション（常に表示）を提供する	A	要判断箇所 手動確認	一般的なブラウザで音声コンテンツを実際に再生し、字幕（G93では埋め込み字幕）を表示することが可能なことを確認してください。 （オープンキャプション:動画に埋め込まれている字幕。利用者が自由に消したり、位置を変えたりすることはできない。）	○	–		音声及び映像コンテンツ無し 同上	音声及び映像コンテンツ無し 同上	音声及び映像コンテンツ無し 同上	音声及び映像コンテンツ無し 同上	音声及び映像コンテンツ無し 同上	音声及び映像コンテンツ無し 同上	音声及び映像コンテンツ無し 同上	音声及び映像コンテンツ無し 同上	音声及び映像コンテンツ無し 同上	音声及び映像コンテンツ無し 同上	音声及び映像コンテンツ無し 同上	1.2.2-項番1-a
G87	クローズド・キャプションを提供する	A	要判断箇所 手動確認	一般的なブラウザで音声コンテンツを実際に再生し、字幕（G87ではクローズドキャプション）を表示することが可能なことを確認してください。 （クローズドキャプション：動画とは別に用意された字幕。再生するときに、動画と字幕が同期して提供される。動画とは異なる場所に表示したり、自由にオンオフするこ	○	–		同上 同上	同上 同上	同上 同上	同上 同上	同上 同上	同上 同上	同上 同上	同上 同上	同上 同上	同上 同上	同上 同上	1.2.2-項番1-a
SM11	SMIL 1.0で同期したテキストストリームによるキャプションを提供する	A	要判断箇所	クローズドキャプションがSMIL1.0によって提供されていることを確認してください。 SMIL1.0を用いていなくとも、ブラウザで実際に操作し他の方法で字幕が提供されていることが確認済みであるならば、この項目は不適用とします。	○	–		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	
SM12	SMIL 2.0で同期したテキストストリームによるキャプションを提供する	A	要判断箇所	クローズドキャプションがSMIL2.0によって提供されていることを確認してください。 SMIL2.0を用いていなくとも、ブラウザで実際に操作し他の方法で字幕が提供されていることが確認済みであるならば、この項目は不適用とします。	○	–		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	
	（達成方法を追加する場合、ここに追加してください。）																		
1.2.3	**音声解説又はメディアに対する代替コンテンツ（収録済み）：** 同期したメディアに含まれている収録済みの映像コンテンツに対して、時間依存メディアに対する代替又は音声解説が提供されている。ただし、その同期したメディアがメディアによるテキストの代替コンテンツであって、メディアによる代替であることが明確にラベル付けされている場合は除く	A		例外事項の補足: テキストで提供されている部分があり、それを代替するために（文字情報よりも音声や映像の方が理解しやすい人のために）用意された、同期したメディアである場合、かつ、それが代替メディアであることが明確にラベル付けされている場合は除きます。 追加の補足： どの達成方法の組み合わせで達成させるかを予め把握し、それらの達成方法が適合であるかどうかの判定をすると良いでしょう。															
G69	時間の経過の伴い変化するメディアに対して代替コンテンツを提供する	A	要判断箇所	動画コンテンツがある場合、一般的な音声解説（音声ガイドとも呼ばれます）とは異なる何らかの方法で、その内容を動画に同期して説明する代替コンテンツが提供されていれば適合とします。（ただし、その代替コンテンツに容易にアクセスできるようにしておく必要があります。これは、G58とH53で評価します。）	○	–		音声及び映像コンテンツ無し	音声及び映像コンテンツ無し	音声及び映像コンテンツ無し	音声及び映像コンテンツ無し	音声及び映像コンテンツ無し	音声及び映像コンテンツ無し	音声及び映像コンテンツ無し	音声及び映像コンテンツ無し	音声及び映像コンテンツ無し	音声及び映像コンテンツ無し	音声及び映像コンテンツ無し	1.2.3-項番1-a
G58	非テキストコンテンツのすぐ隣に、時間の経過に伴って変化するメディアの代替へのリンクを置く	A	要判断箇所	動画コンテンツのすぐ横に、代替コンテンツへのリンクが用意されていれば適合です。一般的なブラウザで操作して確認します。	○	–		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	1.2.3-項番1-a
H53	object 要素のボディに代替テキストを記述する	A	問題あり 要判断箇	object要素を用いている場合は代替テキストを設けてください。（objectのbodyに内容を説明するテキストをおくなど）	○	–		同上 同上	同上 同上	同上 同上	同上 同上	同上 同上	同上 同上	同上 同上	同上 同上	同上 同上	同上 同上	同上 同上	1.2.3-項番1-a
G78	音声解説を含んだ、利用者が選択可能な副音声トラックを提供する	A	要判断箇所	一般的なブラウザで、動画コンテンツが、音声解説（音声ガイドとも呼ばれます）を含む副音声を利用できるようになっていれば適合です。（オリジナルの音声トラックに音声解説が加わった副音声トラックが用意されている。あるいは、同時に再生が可能である。）	○	–		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	1.2.3-項番1-a
G173	映像の音声解説付きバージョンを提供する	A	要判断箇所	一般的なブラウザで、動画コンテンツが、SMIL技術などによる音声解説（音声ガイドとも呼ばれます）を提供する仕組みが用意されていれば適合です。	○	–		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	1.2.3-項番1-a
SM6	SMIL 1.0で音声解説を提供する	A	要判断箇所	SMIL1.0を用いた音声解説（音声ガイドとも呼ばれます）を提供する仕組みが用意されていれば適合です。	○	–		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	1.2.3-項番1-a
SM7	SMIL 2.0で音声解説を提供する	A	要判断箇所	SMIL2.0を用いた音声解説（音声ガイドとも呼ばれます）を提供する仕組みが用意されていれば適合です。	○	–		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	1.2.3-項番1-a
G8	拡張した音声解説付のムービーを提供する	A	要判断箇所	一般的なブラウザで、動画コンテンツが、SMIL技術などによる拡張音声解説（拡張音声ガイドとも呼ばれます）を提供する仕組みが用意されていれば適合です。	○	–		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	1.2.3-項番1-a
SM1	SMIL 1.0で拡張した音声解説を追加する	A	要判断箇所	SMIL1.0を用いた拡張音声解説（拡張音声ガイドとも呼ばれます）を提供する仕組みが用意されていれば適合です。	○	–		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	1.2.3-項番1-a
SM2	SMIL 2.0で拡張した音声解説を追加する	A	要判断箇所	SMIL2.0を用いた拡張音声解説（拡張音声ガイドとも呼ばれます）を提供する仕組みが用意されていれば適合です。	○	–		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	1.2.3-項番1-a
	（達成方法を追加する場合、ここに追加してください。）																		
1.2.4	**キャプション（ライブ）：** 同期したメディアに含まれている全てのライブの音声コンテンツに対して、キャプションが提供されている	AA		追加の補足： どの達成方法の組み合わせで達成させるかを予め把握し、それらの達成方法が適合であるかどうかの判定をすると良いでしょう。															
G9	ライブの同期したメディアに対してキャプションを作成する	AA	要判断箇所	ライブを実施するとき、それを字幕として提供するための仕組みが用意されていることを確認してください。	○	–		音声及び映像コンテンツ無し	音声及び映像コンテンツ無し	音声及び映像コンテンツ無し	音声及び映像コンテンツ無し	音声及び映像コンテンツ無し	音声及び映像コンテンツ無し	音声及び映像コンテンツ無し	音声及び映像コンテンツ無し	音声及び映像コンテンツ無し	音声及び映像コンテンツ無し	音声及び映像コンテンツ無し	1.2.4
G93	オープン・キャプション（常に表示）を提供する	AA	要判断箇所 手動確認	一般的なブラウザで音声コンテンツを実際に再生し、字幕（G93では埋め込み字幕）を表示することが可能なことを確認してください。 （オープンキャプション:動画に埋め込まれている字幕。利用者が自由に消したり、位置を変えたりすることはできない。）	○	–		同上 同上	同上 同上	同上 同上	同上 同上	同上 同上	同上 同上	同上 同上	同上 同上	同上 同上	同上 同上	同上 同上	1.2.4
G87	クローズド・キャプションを提供する	AA	要判断箇所 手動確認	一般的なブラウザで音声コンテンツを実際に再生し、字幕（G87ではクローズドキャプション）を表示することが可能なことを確認してください。 （クローズドキャプション：動画とは別に用意された字幕。再生するときに、動画と字幕が同期して提供される。動画とは異なる場所に表示したり、自由にオンオフするこ	○	–		同上 同上	同上 同上	同上 同上	同上 同上	同上 同上	同上 同上	同上 同上	同上 同上	同上 同上	同上 同上	同上 同上	1.2.4
SM11	SMIL 1.0で同期したテキストストリームによるキャプションを提供する	AA	要判断箇所	クローズドキャプションがSMIL1.0によって提供されていることを確認してください。 SMIL1.0を用いていなくとも、ブラウザで実際に操作し他の方法で字幕が提供されていることが確認済みであるならば、この項目は不適用とします。	○	–		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	
SM12	SMIL 2.0で同期したテキストストリームによるキャプションを提供する	AA	要判断箇所	クローズドキャプションがSMIL2.0によって提供されていることを確認してください。 SMIL2.0を用いていなくとも、ブラウザで実際に操作し他の方法で字幕が提供されていることが確認済みであるならば、この項目は不適用とします。	○	–		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	
	（達成方法を追加する場合、ここに追加してください。）																		
1.2.5	**音声解説（収録済み）：** 同期したメディアに含まれている全ての収録済みの映像コンテンツに対して、音声解説が提供されている	AA		追加の補足： どの達成方法の組み合わせで達成させるかを予め把握し、それらの達成方法が適合であるかどうかの判定をすると良いでしょう。															
G78	音声解説を含んだ、利用者が選択可能な副音声トラックを提供する	AA	要判断箇所	一般的なブラウザで、動画コンテンツが、音声解説（音声ガイドとも呼ばれます）を含む副音声を利用できるようになっていれば適合です。（オリジナルの音声トラックに音声解説が加わった副音声トラックが用意されている。あるいは、同時に再生が可能である。）	○	–		音声及び映像コンテンツ無し	音声及び映像コンテンツ無し	音声及び映像コンテンツ無し	音声及び映像コンテンツ無し	音声及び映像コンテンツ無し	音声及び映像コンテンツ無し	音声及び映像コンテンツ無し	音声及び映像コンテンツ無し	音声及び映像コンテンツ無し	音声及び映像コンテンツ無し	音声及び映像コンテンツ無し	1.2.5
G173	映像の音声解説付きバージョンを提供する	AA	要判断箇所	一般的なブラウザで、動画コンテンツが、SMIL技術などによる音声解説（音声ガイドとも呼ばれます）を提供する仕組みが用意されていれば適合です。	○	–		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	1.2.5
SM6	SMIL 1.0で音声解説を提供する	AA	要判断箇所	SMIL1.0を用いた音声解説（音声ガイドとも呼ばれます）を提供する仕組みが用意されていれば適合です。	○	–		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	1.2.5
SM7	SMIL 2.0で音声解説を提供する	AA	要判断箇所	SMIL2.0を用いた音声解説（音声ガイドとも呼ばれます）を提供する仕組みが用意されていれば適合です。	○	–		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	1.2.5
G8	拡張した音声解説付のムービーを提供する	AA	要判断箇所	一般的なブラウザで、動画コンテンツが、SMIL技術などによる拡張音声解説（拡張音声ガイドとも呼ばれます）を提供する仕組みが用意されていれば適合です。	○	–		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	1.2.5
SM1	SMIL 1.0で拡張した音声解説を追加する	AA	要判断箇所	SMIL1.0を用いた拡張音声解説（拡張音声ガイドとも呼ばれます）を提供する仕組みが用意されていれば適合です。	○	–		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	1.2.5
SM2	SMIL 2.0で拡張した音声解説を追加する	AA	要判断箇所	SMIL2.0を用いた拡張音声解説（拡張音声ガイドとも呼ばれます）を提供する仕組みが用意されていれば適合です。	○	–		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	1.2.5
	（達成方法を追加する場合、ここに追加してください。）																		
1.3	**情報、及び構造を損なうことなく、様々な方法（例えば、よりシンプルなレイアウト）で提供できるようにコンテンツを制作する。**																		
1.3.1	**情報及び関係性：** 何らかの形で提示されている情報、構造、及び関係性は、プログラムによる解釈が可能である、又はテキストで提供されている	A																	
G115	セマンティックな要素を用いて、構造をマークアップする	A	手動確認	太く目立たせるなど装飾された個所が、強調や引用などの特別な意味を持つ場合には、その情報がセマンティックなマークアップによって伝えられているかどうかを確認してください。 不適合の例： ・引用箇所なのにblockquote要素が使われていない。 ・参照箇所なのにcite要素が使われていない。 ・下付き文字、上付き文字が、sub,sup要素ではなく、font、span要素などで表現されている。	×		CMSで太字指定をした際のマークアップ方法を変更することを検討する。						コンテンツ内の太字箇所がCSSによって表現されている。	コンテンツ内の太字箇所がCSSによって表現されている。					1.3.1-状況A-項番1,2,3,4
H49	セマンティックなマークアップを用いて、強調又は特別なテキストをマークアップする	A	要判断箇所 手動確認	指示に従って要判断の内容を確認してください。修正が必要な場合は不適合となります。	×		CMSで太字指定をした際のマークアップ方法を変更することを検討する。						同上	同上					1.3.1-状況A-項番1,2,3,4
G117	テキストを用いて、テキストの表現のバリエーションによって伝えている情報を伝達する	A	手動確認	miCheckerの音声ブラウザモードで視覚化を実行してください。フォントを変えたり、下線を引くなどのテキストのバリエーションで情報を伝えている部分の情報は失われます。そうした状況であっても、情報が伝わるかどうかを確認してください。例えば、括弧書きで説明を加えたり、ページ末で補足したりする方法があります。そうした配慮もない場合は不適合とします。	○														1.3.1-状況A-項番5
G140	情報と構造を表現から分離して、異なる表現を可能にする	A	問題の可能性大 要判断箇 手動確認	一般的なブラウザでCSSをオフにして表示し情報が伝わるかどうかを確認してください。	○														1.3.1-状況A-項番6
G138	色の手がかりを用いる際は、必ずセマンティックなマークアップを用いる	A	手動確認	miCheckerの音声ブラウザモードで視覚化を実行してください。色を手がかりとして使っているために情報が欠落している部分には、emやstrongなどのセマンティックなマークアップを用いる必要があります。満たしていない場合には不適合です。	○	–		該当するコンテンツなし	該当するコンテンツなし	該当するコンテンツなし	該当するコンテンツなし	該当するコンテンツなし	該当するコンテンツなし	該当するコンテンツなし	該当するコンテンツなし	該当するコンテンツなし	該当するコンテンツなし	該当するコンテンツなし	1.3.1-状況A-項番7
H51	テーブルのマークアップを用いて、表の情報を提示する	A	手動確認	miCheckerの音声ブラウザモードで視覚化を実行し、表形式の部分が、table,tr,(th),td要素を使ってマークアップされていることを確認してください。スペースやタブ、あるいは空白画像などを用いて表のように見せかけている場合は不適合です	○	–		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	1.3.1-状況A-項番8
H39	caption 要素を用いて、データテーブルの表題とデータテーブルを関連付ける	A	問題の可能性大 要判断箇所	データテーブルと推測される部分に次のような問題の可能性があります。 ・caption要素がありません。 ・caption要素とsummary属性が重複しています。 ・ページ内においてcaptionの重複があります。 レイアウトテーブルと推測される部分に次のような問題の可能性があります。 ・caption要素が設定されています。 これらいずれかの問題が認められる場合は不適合です。 何も検出されない場合でも、次の事を確認してください。 ・データテーブルがあり表題が設定されている場合、表題にはcaptionが用いられている。	○														1.3.1-状況A-項番9
H73	table 要素の summary 属性を用いて、データテーブルの概要を提供する	A	問題の可能性大 要判断箇所	データテーブルと推測される部分に次のような問題の可能性があります。 ・summary属性がありません。 ・summary属性とcaption要素が重複しています。 レイアウトテーブルと推測される部分に次のような問題の可能性があります。 ・summary属性に値が設定されています。（summary=""は良い） 何も検出されない場合でも、次の事を確認してください。 ・データテーブルがありsummary属性が提供されているとき、そのsummaryの内容は、テーブルの構成や利用方法を説明している。 すべて問題なければ適合です。	○														1.3.1-状況A-項番10
H63	scope 属性を用いて、データテーブルの見出しセルとデータセルを関連付ける	A	問題あり 要判断箇所	miCheckerの音声ユーザビリティ視覚化モードで次のことを確認します。 表内のデータの見出しが行方向にあるのか列方向にあるのかが不明確な場合は、scopeを用いて方向が設定されている必要があります。設定されていれば適合です。	○														1.3.1-状況A-項番11

H43	id 属性及び headers 属性を用いて、データテーブルのデータセルを見出しセルと関連付ける	A	問題あり	miCheckerの音声ユーザビリティ視覚化モードでidとheadersの関係を確認してください。 何も検出されない場合でも、複雑な表が存在する場合には、idとheadersを用いて、データセルと見出しセルの関連付けをしていることをmiCheckerの音声ユーザビリティ視覚化モードで確認してください。	○														1.3.1-状況A-項番12
H44	label要素を用いて、テキストのラベルとフォーム・コントロールを関連付ける	A	問題あり 問題の可能性大 要判断箇	フォーム・コントロールがテキストのラベルと関連付けられていません。ラベルの使用が困難なフォーム・コントロールがある場合はH65に従います。	○														1.3.1-状況A-項番13-a
H65	label要素を用いることができないとき、title属性を用いてフォーム・コントロールを特定する	A	問題あり 要判断箇所	ラベルに相当するものが画面に表示されていない場合、あるいは、郵便番号のようにフォーム・コントロールが連続しているためlabel要素を用いることができない場合は、title属性を用いてフォーム・コントールを特定します。H44に従うことが可能な場合は、H44を優先します。	○														1.3.1-状況A-項番13-b
H71	fieldset 要素及び legend 要素を用いて、フォーム・コントロールのグループに関する説明を提供する	A	問題あり 要判断箇所	フォームのコントロールがあるグループを形成している場合は、fieldset 要素及び legend 要素を用いて、フォーム・コントロールのグループに関する説明を提供してください。(ソースレベルで確認してください。) input type="text" でもグループを形成しているときは、同様に確認してください。	○	－		非適用とする。	非適用とする。	非適用とする。	非適用とする。	非適用とする。	非適用とする。	非適用とする。	非適用とする。	非適用とする。	非適用とする。	非適用とする。	1.3.1-状況A-項番14
H85	optgroup 要素を用いて、select 要素内の option 要素をグループ化する	A	要判断箇所	一般的なブラウザでセレクトメニューを開き、選択肢が沢山あるような場合は、その選択肢が適当にグルーピングされていれば適合です。	○														1.3.1-状況A-項番15
H48	リストに、ol 要素、ul 要素、dl 要素を用いる	A	手動確認	一般的なブラウザで表示した時に、リストにすべきであると考えられる部分について、そこにリスト要素が用いられているかどうかを、miCheckerの音声ユーザビリティ視覚化モードで確認してください。もし、リスト要素が使われていない場合は不適合です。例えば、中黒やマイナス記号を行頭において、それが数行並ぶようなケースはリストとするべきでしょう。	○														1.3.1-状況A-項番16
H42	h1要素～h6要素を用いて、見出しを特定する	A	要判断箇所 手動確認	一般的なブラウザで表示した時に、見出しが設定されるべきであると考えられる部分について、miCheckerの音声ユーザビリティ視覚化モードにて、見出しが設定されているかどうかを確認してください。	○														1.3.1-状況A-項番17
SCR21	DOM(ドキュメント・オブジェクト・モデル)を用いて、ページにコンテンツを追加する	A	手動確認	ページにコンテンツを追加する場合はDOMを用いてください。document.write()、innerHTML、outerHTML、innerTextあるいはouterTextは使わないでください。	○														1.3.1-状況A-項番18
T1	段落に、標準的なテキストの書式の表現法を用いる	A	(テキストファイルの場合は[手動確認)	一般的なブラウザで表示して、段落であることが、記述方法やテキストの表現で明確になっているかを確認してください。	○														1.3.1-状況B-項番1
T2	リストに、標準的なテキストの書式の表現法を用いる	A	(テキストファイルの場合は[手動確認)	一般的なブラウザで表示して、リストであることが、記述方法やテキストで明確になっているかを確認してください。	○														1.3.1-状況B-項番1
T3	見出しに、標準的なテキストの書式の表現法を用いる	A	(テキストファイルの場合は[手動確認)	一般的なブラウザで表示して、見出しであることが、記述方法やテキストで明確になっているかを確認してください。	○														1.3.1-状況B-項番1
F46	レイアウトテーブルで、th要素、caption要素、又は空ではないsummary属性を用いている	A	問題の可能性大 要判断箇	レイアウトテーブルの場合は、th要素、caption要素、あるいは空ではないsummary属性は使用しないでください。	○														
	(達成方法を追加する場合、ここに追加してください。)																		
1.3.2	**意味のある順序：** コンテンツが提示されている順序が意味に影響を及ぼす場合には、正しく読む順序はプログラムによる解釈が可能である	A																	
G57	コンテンツを意味のある順序で並べる	A	手動確認	miCheckerの音声ブラウザモードで視覚化を実行してください。(リニアライズされて表示されます。) その状況でも、コンテンツの順序に混乱が発生せずに、リニアライズする前のコンテンツと同じ意味を提供していれば適合です。	○														1.3.2-項番1
C27	DOMの順序を表示順序と一致させる	A	手動確認	一般的なブラウザで、TABキー(HTMLコンテンツの場合)または矢印キーを用いて、フォーカスを受け取る要素を移動して、その順序が意味と操作性を保持していることを確認します。これは、評価対象とする技術全てに対して実施します。(Flashなど) 加えて、miCheckerの音声ブラウザモードで視覚化を実行してください。(リニアライズされて表示されます。) その状況でも、読み上げ順序などに混乱が発生せずに、リニアライズする前のコンテンツと同じ意味を提供していれば適合です。	○														1.3.2-項番1
C8	CSS の letter-spacing プロパティを用いて、単語内の文字間隔を調整する	A	問題の可能性大	指摘された箇所にはスペースが挿入されています。もし、これが文字の見栄えのために挿入されたダミーのスペースの場合には不適合とします。(スペースを空けたい場合はスタイルシートを用います。)	○														
H34	UnicodeのRLM文字又はLRM文字を用いて、インラインでテキストの方向を混在させる	A	手動確認	アラビア語およびヘブライ語が使われている場合、RLM/LRMの指定があることをソースレベルで確認します。ただし、dir指定のどちらかのみを用います。	○	－		アラビア語およびヘブライ語は使用されていないため非適用とする。	アラビア語およびヘブライ語は使用されていないため非適用とする。	アラビア語およびヘブライ語は使用されていないため非適用とする。	アラビア語およびヘブライ語は使用されていないため非適用とする。	アラビア語およびヘブライ語は使用されていないため非適用とする。	アラビア語およびヘブライ語は使用されていないため非適用とする。	アラビア語およびヘブライ語は使用されていないため非適用とする。	アラビア語およびヘブライ語は使用されていないため非適用とする。	アラビア語およびヘブライ語は使用されていないため非適用とする。	アラビア語およびヘブライ語は使用されていないため非適用とする。	アラビア語およびヘブライ語は使用されていないため非適用とする。	
H56	インライン要素の dir 属性を用いて、入れ子になったテキストの表記方向に伴う問題を解決する	A	手動確認	アラビア語およびヘブライ語が使われている場合、dir指定があることをソースレベルで確認します。ただし、RLM/LRM指定のどちらかのみを用います。	○	－		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	
C6	構造を示すマークアップをした上で、コンテンツを配置する	A	手動確認	miCheckerの音声ブラウザモードで視覚化を実行してください。(リニアライズされて表示されます。) その状況でも、コンテンツの構造の理解に混乱が発生せずに、リニアライズする前のコンテンツと同じ意味を提供していれば適合です。	○														
F32	スペースを用いて、単語内の文字間を空けている	A	問題の可能性大	空白を含む部分が単語の場合は不適合です。 この問題が存在する場合は、C8を不適合とします。	○														
F49	リニアライズした際に、意味の通じないHTMLのレイアウトテーブルを用いている	A	要判断箇所	miCheckerの音声ブラウザモードで視覚化を実行してください。(リニアライズされて表示されます。) その状況でも、コンテンツの順序に混乱が発生せずに、リニアライズする前のコンテンツと同じ意味を提供していれば適合です。 この問題が存在する場合は、G57を不適合とします。	○														
	(達成方法を追加する場合、ここに追加してください。)																		
1.3.3	**感覚的な特徴：** コンテンツを理解し操作するための説明は、形、大きさ、視覚的な位置、方向、又は音のような、構成要素がもつ感覚的な特徴だけに依存していない	A																	
G96	理解すべき情報を感覚的にだけ伝えることのないように、テキストでもアイテムを特定する	A	手動確認	miCheckerの音声ユーザビリティ視覚化モードで表示してください。(リニアライズされて表示されます。) その状況でも、感覚的な情報 (大きなボタン、右下のボタンというような表現) によって混乱が発生せずに、リニアライズする前のコンテンツと同じ意味を提供していれば適合です。	○														1.3.3-項番1
	(達成方法を追加する場合、ここに追加してください。)																		
1.4	**コンテンツを、利用者にとって見やすく、聞きやすいものにする。これには、前景と背景とを区別することも含む。**																		
1.4.1	**色の使用：** 色が、情報を伝える、動作を示す、反応を促す、又は視覚的な要素を判別するための唯一の視覚的手段になっていない	A																	
G14	色の違いで伝えている情報をテキストでも入手可能にする	A	要判断箇所 手動確認	miCheckerの音声ユーザビリティ視覚化モードで表示してください。その状態において、色の違いによる表現によって混乱が発生せず、提供されているテキストから同じ意味が取得できれば適合です。	○			色の違いだけで伝えている情報はなし。	色の違いだけで伝えている情報はなし。	色の違いだけで伝えている情報はなし。	色の違いだけで伝えている情報はなし。	色の違いだけで伝えている情報はなし。	色の違いだけで伝えている情報はなし。	色の違いだけで伝えている情報はなし。	色の違いだけで伝えている情報はなし。	色の違いだけで伝えている情報はなし。	色の違いだけで伝えている情報はなし。	色の違いだけで伝えている情報はなし。	1.4.1-状況A-項番1,状況B-項番2
G205	色の手がかりを用いる際には、必ずテキストの手がかりも提供する	A	要判断箇所	miCheckerの音声ユーザビリティ視覚化モードで表示してください。その状態において、色を手かがりにしていることで混乱が発生せず、提供されているテキストから同じ意味が取得できれば適合です。 例えば、ページ中に「赤文字が必須」と色の違いを手がかりにしているような場合は、赤い文字部分にテキストで「(必須)」と添えていないと不適合です。	○			色の違いをてがかりにしている情報はなし。	色の違いをてがかりにしている情報はなし。	色の違いをてがかりにしている情報はなし。	色の違いをてがかりにしている情報はなし。	色の違いをてがかりにしている情報はなし。	色の違いをてがかりにしている情報はなし。	色の違いをてがかりにしている情報はなし。	色の違いをてがかりにしている情報はなし。	色の違いをてがかりにしている情報はなし。	色の違いをてがかりにしている情報はなし。	色の違いをてがかりにしている情報はなし。	1.4.1-状況A-項番1
G182	テキストの色の違いで情報を伝える際は、視覚的な手がかりを補足する	A	要判断箇所	miCheckerの音声ユーザビリティ視覚化モードで表示してください。その状態において、色の違いによる表現によって混乱が発生しないように、視覚的な手かがり(テキストに下線を引く、イタリックにする、フォントを変えるなど)が提供されていれば適合です。	○			色の違いによって伝えている情報はなし。	色の違いによって伝えている情報はなし。	色の違いによって伝えている情報はなし。	色の違いによって伝えている情報はなし。	色の違いによって伝えている情報はなし。	色の違いによって伝えている情報はなし。	色の違いによって伝えている情報はなし。	色の違いによって伝えている情報はなし。	色の違いによって伝えている情報はなし。	色の違いによって伝えている情報はなし。	色の違いによって伝えている情報はなし。	1.4.1-状況A-項番2
G183	リンク又はコントロールを色だけで識別している箇所の視覚的な手がかりを補足するために、周囲にあるテキストとのコントラスト比を 3:1 以上にする	A	手動確認	カラー・コントラスト・アナライザーなどを利用して、リンク又はコントロールを色だけで識別している箇所では、周囲にあるテキストとのコントラスト比が 3:1 以上になっているか確認してください。	○														1.4.1-状況A-項番3
G111	色とパターンを併用する	A	手動確認	一般的なブラウザで、情報を伝える画像の中で色を使っている場合は、色だけでなくパターンを併用しているか確認してください。併用していれば適合です。判断が難しい場合などはモノクロ印刷を行い確認してください。	○	－		非適用とする。	非適用とする。	非適用とする。	非適用とする。	非適用とする。	非適用とする。	非適用とする。	非適用とする。	非適用とする。	非適用とする。	非適用とする。	1.4.1-状況B-項番1
	(達成方法を追加する場合、ここに追加してください。)																		
1.4.2	**音声の制御：** ウェブページ上にある音声が自動的に再生され、3秒より長く続く場合、その音声を一時停止若しくは停止するメカニズム、又はシステム全体の音量レベルに影響を与えずに音量レベルを調整できるメカニズムが利用できる	A																	
G60	音声の再生を3秒以内に自動的に停止する	A	要判断箇所	ページを開いたときに流れる音声が3秒以内に停止することを確認してください。さらに再生される場合は不適合です。	○	－		音声及び映像コンテンツ無し	音声及び映像コンテンツ無し	音声及び映像コンテンツ無し	音声及び映像コンテンツ無し	音声及び映像コンテンツ無し	音声及び映像コンテンツ無し	音声及び映像コンテンツ無し	音声及び映像コンテンツ無し	音声及び映像コンテンツ無し	音声及び映像コンテンツ無し	音声及び映像コンテンツ無し	1.4.2-項番1
G170	自動的に再生される音声を停止するコントロールを、ウェブページの先頭付近で提供する	A	要判断箇所	一般的なブラウザで、ページを開いたときに自動的に音声が再生される場合、それを停止するためのコントロールがページの先頭付近に用意されていることを確認してください。用意されていれば適合です。	○	－		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	1.4.2-項番1
G171	利用者の要求に応じてのみ、音声を再生する	A	問題あり 要判断箇	音声を再生する仕組みがある場合、利用者の指示がないと再生を開始しなければ適合です。	○	－		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	1.4.2-項番1
	(達成方法を追加する場合、ここに追加してください。)																		
1.4.3	**コントラスト(最低限レベル)：** テキスト及び文字画像の視覚的提示には、少なくとも4.5:1のコントラスト比がある。ただし、次の場合は除く: a)大きな文字 b)附随的 c)ロゴタイプ	AA		例外事項の補足: a) 大きな文字の場合のコントラスト比は少なくとも3:1以上。 b) 付随的とは、テキストであっても、装飾を目的にしたもの、写真の一部でその文字自身は重要でないもの、アクティブではないユーザーインタフェース・コンポーネントの一部(意図的にグレーにすることがある)をさす。 c) 会社のロゴなど。 追加の補足: どの達成方法の組み合わせで達成させるかを予め把握し、それらの達成方法が適合であるかどうかの判定をすると良いでしょう。															
G18	テキスト(及び文字画像)とその背景の間に、少なくとも4.5:1以上のコントラスト比をもたせる	AA	要判断箇所 手動確認	miCheckerのロービジョンシミュレーションや、カラー・コントラスト・アナライザーなども利用し、テキスト(文字画像を含む)とその背景とのコントラスト比が 4.5:1 以上になっているかどうかを確認してください。 注意：太字でないテキストが18ポイント(日本語は22ポイント)未満、太字のテキストが14ポイント(日本語は18ポイント)未満の場合に適用	×		主にナビゲーション部分のコントラストに問題があり修正箇所が多岐に渡るため、今後の対応を検討する。	多岐に渡り、テキスト(文字画像を含む)とその背景とのコントラスト比が4.5:1 以下の箇所があります。	多岐に渡り、テキスト(文字画像を含む)とその背景とのコントラスト比が4.5:1 以下の箇所があります。	多岐に渡り、テキスト(文字画像を含む)とその背景とのコントラスト比が4.5:1 以下の箇所があります。	多岐に渡り、テキスト(文字画像を含む)とその背景とのコントラスト比が4.5:1 以下の箇所があります。	多岐に渡り、テキスト(文字画像を含む)とその背景とのコントラスト比が4.5:1 以下の箇所があります。	多岐に渡り、テキスト(文字画像を含む)とその背景とのコントラスト比が4.5:1 以下の箇所があります。	多岐に渡り、テキスト(文字画像を含む)とその背景とのコントラスト比が4.5:1 以下の箇所があります。	多岐に渡り、テキスト(文字画像を含む)とその背景とのコントラスト比が4.5:1 以下の箇所があります。	多岐に渡り、テキスト(文字画像を含む)とその背景とのコントラスト比が4.5:1 以下の箇所があります。	多岐に渡り、テキスト(文字画像を含む)とその背景とのコントラスト比が4.5:1 以下の箇所があります。	多岐に渡り、テキスト(文字画像を含む)とその背景とのコントラスト比が4.5:1 以下の箇所があります。	1.4.3
G148	背景色及びテキストの色を指定せず、その初期設定を変更するウェブコンテンツ技術の機能を用いない	AA	手動確認	テキストの色を指定できる箇所で色を指定していないこと、背景の色を指定できる箇所で背景の色を指定していないこと、背景に画像を指定できる箇所で画像をもちいていないことを確認してください。	○														1.4.3
G174	十分なコントラスト比のあるコントロールを提供して、利用者が十分なコントラストのある表現に変換できるようにする	AA	手動確認	コントラストを変える手段が提供されていて、かつ、その手段自身もコントラストを十分にもっていれば適合です。	×		主にナビゲーション部分のコントラストに問題があり修正箇所が多岐に渡るため、今後の対応を検討する。	画像部分のコントラスト比が必要な値以上に確保されていないため。	画像部分のコントラスト比が必要な値以上に確保されていないため。	画像部分のコントラスト比が必要な値以上に確保されていないため。	画像部分のコントラスト比が必要な値以上に確保されていないため。	画像部分のコントラスト比が必要な値以上に確保されていないため。	画像部分のコントラスト比が必要な値以上に確保されていないため。	画像部分のコントラスト比が必要な値以上に確保されていないため。	画像部分のコントラスト比が必要な値以上に確保されていないため。	画像部分のコントラスト比が必要な値以上に確保されていないため。	画像部分のコントラスト比が必要な値以上に確保されていないため。	画像部分のコントラスト比が必要な値以上に確保されていないため。	1.4.3
G145	テキスト(及び文字画像)とその背景の間に、少なくとも3:1以上のコントラスト比をもたせる	AA	要判断箇所 手動確認	miCheckerのロービジョンシミュレーションや、カラー・コントラスト・アナライザーなども利用し、テキスト(文字画像を含む)とその背景とのコントラスト比が 3:1 以上になっているかどうかを確認してください。 注意：太字でないテキストが少なくとも18ポイント(日本語は22ポイント)以上、太字のテキストが少なくとも14ポイント(日本語は18ポイント)以上の場合に適用	×		主にナビゲーション部分のコントラストに問題があり修正箇所が多岐に渡るため、今後の対応を検討する。	多岐に渡り、テキスト(文字画像を含む)とその背景とのコントラスト比が3:1 以下の箇所があります。	多岐に渡り、テキスト(文字画像を含む)とその背景とのコントラスト比が3:1 以下の箇所があります。	多岐に渡り、テキスト(文字画像を含む)とその背景とのコントラスト比が3:1 以下の箇所があります。	多岐に渡り、テキスト(文字画像を含む)とその背景とのコントラスト比が3:1 以下の箇所があります。	多岐に渡り、テキスト(文字画像を含む)とその背景とのコントラスト比が3:1 以下の箇所があります。	多岐に渡り、テキスト(文字画像を含む)とその背景とのコントラスト比が3:1 以下の箇所があります。	多岐に渡り、テキスト(文字画像を含む)とその背景とのコントラスト比が3:1 以下の箇所があります。	多岐に渡り、テキスト(文字画像を含む)とその背景とのコントラスト比が3:1 以下の箇所があります。	多岐に渡り、テキスト(文字画像を含む)とその背景とのコントラスト比が3:1 以下の箇所があります。	多岐に渡り、テキスト(文字画像を含む)とその背景とのコントラスト比が3:1 以下の箇所があります。	多岐に渡り、テキスト(文字画像を含む)とその背景とのコントラスト比が3:1 以下の箇所があります。	1.4.3
	(達成方法を追加する場合、ここに追加してください。)																		

1.4.4	**テキストのサイズ変更：** キャプション及び文字画像を除き、テキストは、コンテンツ又は機能を損なうことなく、支援技術なしで200 %までサイズ変更できる	AA		追加の補足： どの達成方法の組み合わせで達成させるかを予め把握し、それらの達成方法が適合であるかどうかの判定をすると良いでしょう。 サポートするブラウザによって、実装する達成方法が異なる可能性があることにも注意してください。（G178の達成方法によりコンテンツとして拡大機能を提供したとしても、それが働かないブラウザがサポート対象として含まれるならば、依然、G178以外のここにあげられた達成方法で等しく拡大することが出来るようにしなくてはならない。）															
G142	ズーム機能をサポートする一般に入手可能なユーザーエージェントのあるウェブコンテンツ技術を用いる	AA	手動確認	サポート対象のブラウザで、ブラウザの持つズーム機能が利用できることを確認してください。	○														1.4.4
C28	em単位を用いて、テキストコンテナのサイズを指定する (CSS)	AA	手動確認	テキストコンテナのサイズ指定にはem単位を使ってください。	×		em単位ではなく、CSSによってコンテンツ又は機能を損なうことなく、支援技術なしで200 %までテキストサイズを変更できるため、この達成方法は保留とする。												1.4.4
C12	パーセントを用いてフォントサイズを指定する (CSS)	AA	問題あり 問題の可能性大	固定フォントが使われている可能性があります。フォントサイズの指定にはパーセントを用いてください。 miCheckerのロービジョンシミュレーションを利用すると、確認すべき箇所の絞込みが可能になります。	○			対象箇所が画像化された文字であることを確認。	対象箇所が画像化された文字であることを確認。	対象箇所が画像化された文字であることを確認。	対象箇所が画像化された文字であることを確認。	対象箇所が画像化された文字であることを確認。	対象箇所が画像化された文字であることを確認。	対象箇所が画像化された文字であることを確認。	対象箇所が画像化された文字であることを確認。	対象箇所が画像化された文字であることを確認。	対象箇所が画像化された文字であることを確認。	対象箇所が画像化された文字であることを確認。	1.4.4
C13	キーワードを用いてフォントサイズを指定する (CSS)	AA	問題あり 問題の可能性大	固定フォントが使われている可能性があります。フォントサイズの指定にはキーワード(largeなど)を用いてください。 miCheckerのロービジョンシミュレーションを利用すると、確認すべき箇所の絞込みが可能になります。	○			同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	1.4.4
C14	em単位を用いてフォントサイズを指定する (CSS)	AA	問題あり 問題の可能性大	固定フォントが使われている可能性があります。フォントサイズの指定にはem単位を用いてください。 miCheckerのロービジョンシミュレーションを利用すると、確認すべき箇所の絞込みが可能になります。	○			同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	1.4.4
SCR34	テキストサイズに応じて拡大するように、サイズ及びポジションを定める (Scripting)	AA	問題の可能性大 手動確認	テキストサイズに応じてテキストコンテナのサイズを変更するスクリプトが組み込まれていることを実際に操作して確認してください。(200%まで)	○														1.4.4
G146	リキッドレイアウトを用いる	AA	手動確認	リキッドレイアウトを用いている場合は適合です。	○														1.4.4
G178	利用者がウェブページ上のすべてのテキストを200%まで徐々に変更できるコントロールをウェブページ上で提供する	AA	手動確認	文字を拡大する仕組みが用意されていれば適合です。	○														1.4.4
G179	文字サイズを変更しても、テキストコンテナのサイズが変更されない際に、コンテンツ又は機能が損なわれないようにする	AA	手動確認	サポートするブラウザで実際に拡大してください。	○														1.4.4
	(達成方法を追加する場合、ここに追加してください。)																		
1.4.5	**文字画像：** 使用している技術で意図した視覚的提示が可能である場合、文字画像ではなくテキストが情報伝達に用いられている。ただし、次に挙げる場合を除く： a)カスタマイズ可能　b)必要不可欠	AA		例外事項の補足： a) 画像であってもユーザの要求でカスタマイズ可能な場合。 b) 画像化することが必要不可欠な場合。(ロゴやブランド名など)															
C22	CSSを用いて、テキストの視覚的な表現を制御する (CSS)	AA	問題の可能性大 手動確認	一般的なブラウザで文字画像イメージが無いかどうかを探してください。もし、存在した場合には、それをテキストに置き換えることができないか検討してください。置き換えられる場合は不適合です。	○			使用されている文字画像は、意図した表現がHTML＆CSSでは実現できないと判断。	使用されている文字画像は、意図した表現がHTML＆CSSでは実現できないと判断。	使用されている文字画像は、意図した表現がHTML＆CSSでは実現できないと判断。	使用されている文字画像は、意図した表現がHTML＆CSSでは実現できないと判断。	使用されている文字画像は、意図した表現がHTML＆CSSでは実現できないと判断。	使用されている文字画像は、意図した表現がHTML＆CSSでは実現できないと判断。	使用されている文字画像は、意図した表現がHTML＆CSSでは実現できないと判断。	使用されている文字画像は、意図した表現がHTML＆CSSでは実現できないと判断。	使用されている文字画像は、意図した表現がHTML＆CSSでは実現できないと判断。	使用されている文字画像は、意図した表現がHTML＆CSSでは実現できないと判断。	使用されている文字画像は、意図した表現がHTML＆CSSでは実現できないと判断。	1.4.5
C30	CSSを用いて、テキストを文字画像に置き換え、変換するユーザーインタフェースコントロールを提供する (CSS)	AA	手動確認	音声ブラウザで実際に操作をしてみて、該当するテキスト画像の部分に利用可能なテキストが提供されているかを確認してください。(CSSを用いて支援技術のために意図的にテキストを画面外に配置している場合があります。)	○														1.4.5
G140	情報と構造を表現から分離して、異なる表現を可能にする	AA	問題の可能性大 要判断箇所 手動確認	一般的なブラウザでCSSをオフにして表示し情報が伝わるかどうかを確認してください。	○														1.4.5
	(達成方法を追加する場合、ここに追加してください。)																		
2	**操作可能**																		
2.1	**全ての機能をキーボードから利用できるようにする。**																		
2.1.1	**キーボード：** コンテンツの全ての機能は、個々のキーストロークに特定のタイミングを要することなく、キーボードインタフェースを通じて操作可能である。ただし、その根本的な機能が利用者の動作による始点から終点まで続く一連の軌跡に依存して実現されている場合は除く	A		例外事項の補足： 手書き認識がこの例外に該当するとしても、キーボードによる入力を省いて良いことにはならないことに注意する。															
H91	HTMLのフォーム・コントロール及びリンクを用いる	A	手動確認	支援技術を利用して、操作することのできないリンクやコントロール部分が無いか確認してください。キーボードで移動ができても、音声ブラウザで読み上げることができないような部分がある場合は不適合です。	×		スティッキーヘッダー（スクロールに追従するグローバルナビゲーション）との相性が悪いため、スティッキーヘッダーの廃止も含めて検討する。	ページ最上部にあるナビゲーション・本文・フッターへのブロックスキップが有効でない。	ページ最上部にあるナビゲーション・本文・フッターへのブロックスキップが有効でない。	ページ最上部にあるナビゲーション・本文・フッターへのブロックスキップが有効でない。	ページ最上部にあるナビゲーション・本文・フッターへのブロックスキップが有効でない。	ページ最上部にあるナビゲーション・本文・フッターへのブロックスキップが有効でない。	ページ最上部にあるナビゲーション・本文・フッターへのブロックスキップが有効でない。	ページ最上部にあるナビゲーション・本文・フッターへのブロックスキップが有効でない。	ページ最上部にあるナビゲーション・本文・フッターへのブロックスキップが有効でない。	ページ最上部にあるナビゲーション・本文・フッターへのブロックスキップが有効でない。	ページ最上部にあるナビゲーション・本文・フッターへのブロックスキップが有効でない。	ページ最上部にあるナビゲーション・本文・フッターへのブロックスキップが有効でない。	2.1.1-項番1
G90	キーボードがトリガーとなるイベント・ハンドラを提供する	A	問題の可能性大 要判断箇所	一般的なブラウザで、キーボードで全ての操作が可能であることを確認してください。全ての操作が可能であれば適合です。	○														2.1.1-項番1
SCR20	キーボードとその他のデバイス特有の機能を両方とも用いる	A	問題の可能性大	マウスでは操作できても、キーボードでは操作のできない可能性があります。次の技術の使われている部分を中心に検証してください。(mousedown, mouseup, click, mouseover, mouseout) もし、操作のできない部分があれば不適合です。	○														2.1.1-項番1
SCR35	アンカー及びボタンのonclickイベントを用いて、アクションをキーボードで操作可能にする	A	問題の可能性大	アンカー及びボタンのonclickイベントが用いられていて、キーボードで操作可能であることを確認してください。スクリプトが使用できない環境の場合は、URIが呼び出され同様の操作が可能です。	○														2.1.1-項番1
SCR2	キーボード及びマウスのイベント・ハンドラを両方とも用いる	A	問題の可能性大	一般的なブラウザで、マウスやキーボードで操作する部分は、その両方で操作可能であるか確認してください。	○														2.1.1-項番1
	(達成方法を追加する場合、ここに追加してください。)																		
2.1.2	**キーボードトラップなし：** キーボードインタフェースを用いてキーボードフォーカスをそのウェブページのあるコンポーネントに移動できる場合、キーボードインタフェースだけを用いてそのコンポーネントからフォーカスを外すことが可能である。さらに、修飾キーを伴わない矢印キー、Tabキー、又はフォーカスを外すその他の標準的な方法でフォーカスを外せない場合は、フォーカスを外す方法が利用者に通知される	A																	
G21	ユーザーがコンテンツ内に閉じ込められないようにする	A	要判断箇所	一般的なブラウザでTABキーや矢印キーだけで操作しているとき、特定の箇所からフォーカスが移動出来なくならないかどうかを確認してください。抜け出せなくなる場合、抜け出す方法が提示されていないかを確認してください。抜け出すことができない場合は不適合です。	○														2.1.2-項番1-a
	(達成方法を追加する場合、ここに追加してください。)																		
2.2	利用者がコンテンツを読み、かつ、使用するために十分な時間を提供する。																		
2.2.1	**タイミング調整可能：** コンテンツに制限時間を設定する場合は、次に示す事項のうち、少なくとも一つを満たしている： a)解除、b)調整、c)延長、d)リアルタイムの例外、e)必要不可欠な例外、f)20時間の例外	A		例外事項の補足： d) オークションやTV番組と連動したプレゼントの申し込みのようなリアルタイムのイベントにおいて制限時間が必須の要素であるもの。 e) クイズなど制限時間が必要不可欠なもの。 f) 制限時間が20時間より長いもの。															
G133	複数の画面で構成されるフォームの最初のページに、利用者がセッションの制限時間を延長又は解除できるチェックボックスを提供する	A	手動確認	セッションに時間制限がある場合は、フォームの最初のページに、セッションの制限時間を延長又は解除することのできるチェックボックスが提供されているかどうかを一般的なブラウザで確認してください。	○	-		制限時間を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	制限時間を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	制限時間を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	制限時間を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	制限時間を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	制限時間を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	制限時間を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	制限時間を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	制限時間を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	制限時間を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	制限時間を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	2.2.1-状況A-項番1
G198	利用者が制限時間を解除できる手段を提供する	A	問題あり 手動確認	セッションに時間制限がある場合、制限時間がページ上のスクリプトで制御されている場合、あるいは自動的にスクロールすることなどにより、コンテンツを読むのに制限時間がある場合は、制限時間を解除できる手段が提供されているかどうかを一般的なブラウザ等で確認してください。	○	-		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	2.2.1-状況A-項番1,状況B-項番1,状況C-項番1
G180	利用者が初期設定の制限時間を10倍に設定できる手段を提供する	A	問題あり 手動確認	制限時間がページ上のスクリプトで制御されている場合は、利用者自身で制限時間を10倍に設定することができるかどうかを一般的なブラウザ等で確認してください。	○	-		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	2.2.1-状況B-項番1
SCR16	制限時間が切れようとしていることを利用者に警告するスクリプトを提供する	A	手動確認	制限時間がページ上のスクリプトで制御されている場合は、時間が切れようとしていることを利用者に警告することができるかどうかを一般的なブラウザ等で確認してください。	○	-		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	2.2.1-状況B-項番1
SCR1	利用者が初期設定の制限時間を延長できるようにする	A	手動確認	制限時間がある場合、利用者が初期設定の制限時間を延長できるようになっているかを一般的なブラウザ等で確認してください。	○	-		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	2.2.1-状況B-項番1
G4	コンテンツを一時停止させて、一時停止させたところから再開できるようにする	A	問題あり 手動確認	自動的にスクロールすることなどにより、コンテンツを読むのに制限時間がある場合は、その動作を一時的に停止したり、再開することができるかどうかを一般的なブラウザ等で確認してください。なお、marquee要素を使うと、これを達成するのは困難になります。	×		メイン画像の動きをユーザー側で明示的に一時停止できる機能を追加することを検討する。	メイン画像の変化をコントロールできる機能がない。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	2.2.1-状況C-項番1
SCR33	スクリプトを用いてコンテンツをスクロールし、それを一時停止できるメカニズムを提供する	A	手動確認	自動的にスクロールすることなどにより、コンテンツを読むのに制限時間がある場合は、利用者自身でスクロールを一時停止することができるかどうかを一般的なブラウザ等で確認してください。	×		メイン画像の動きをユーザー側で明示的に一時停止できる機能を追加することを検討する。	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	2.2.1-状況C-項番1
SCR36	静的なウィンドウ又はエリアにある、動きのあるテキスト、スクロールするテキスト、又は自動更新されるテキストを利用者が表示できるメカニズムを提供する	A	手動確認	自動的にスクロールすることなどにより、コンテンツを読むのに制限時間がある場合は、別の静的なウィンドウ又はエリアに表示することのできるメカニズムを用意してあるかどうかを一般的なブラウザ等で確認してください。	×		メイン画像の動きをユーザー側で明示的に一時停止できる機能を追加することを検討する。	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	2.2.1-状況C-項番1
F41	meta要素によるタイムアウト付きのリフレッシュを用いている	A	問題あり	この問題がある場合はG198を不適合としてください。	○	-		該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	
	(達成方法を追加する場合、ここに追加してください。)																		
2.2.2	**一時停止、停止及び非表示：** 動きのある、点滅している、スクロールする、又は自動更新する情報は、次の全ての事項を満たしている： a)動き、点滅又はスクロール、b)自動更新	A																	
G4	コンテンツを一時停止させて、一時停止させたところから再開できるようにする	A	問題あり 手動確認	自動的にスクロールすることなどにより、コンテンツを読むのに制限時間がある場合は、その動作を一時的に停止したり、再開することができるかどうかを一般的なブラウザ等で確認してください。marquee要素を使うと、これを達成するのは困難になります。	×		メイン画像の動きをユーザー側で明示的に一時停止できる機能を追加することを検討する。	メイン画像の変化をコントロールできる機能がない。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	2.2.2-項番1-a,1-b
SCR33	スクリプトを用いてコンテンツをスクロールし、それを一時停止できるメカニズムを提供する	A	手動確認	自動的にスクロールすることなどにより、コンテンツを読むのに制限時間がある場合は、利用者自身でスクロールを一時停止することができるかどうかを一般的なブラウザ等で確認してください。	×		メイン画像の動きをユーザー側で明示的に一時停止できる機能を追加することを検討する。	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	2.2.2-項番1-a,1-b
G11	5秒未満で点滅が終わるようにコンテンツを制作する	A	問題あり 問題の可能性大	blink要素や text-decoration プロパティを用いて5秒以上点滅させないでください。	○	-		点滅を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	点滅を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	点滅を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	点滅を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	点滅を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	点滅を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	点滅を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	点滅を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	点滅を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	点滅を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	点滅を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	2.2.2-項番1-a,1-b
G187	ユーザーエージェントによって点滅するコンテンツを停止できるウェブコンテンツ技術を用いる	A	問題あり 問題の可能性大	点滅するコンテンツは、5秒以内に停止するか、利用者自身によって停止することができるようになっていることを一般的なブラウザで確認してください。	○			同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	2.2.2-項番1-a,1-b
G152	数回のループ後(5秒以内)に停止するように、アニメーションGIFを設定する	A	要判断箇所	アニメーションする場合、5秒以内に停止するか、利用者自身によって停止することができるようになっていることを一般的なブラウザで確認してください。	○	-		アニメーションGIFは使用していない。	アニメーションGIFは使用していない。	アニメーションGIFは使用していない。	アニメーションGIFは使用していない。	アニメーションGIFは使用していない。	アニメーションGIFは使用していない。	アニメーションGIFは使用していない。	アニメーションGIFは使用していない。	アニメーションGIFは使用していない。	アニメーションGIFは使用していない。	アニメーションGIFは使用していない。	2.2.2-項番1-a,1-b

SCR22	スクリプトを用いて、点滅を制御し、5秒以内に停止させる	A	手動確認	点滅は5秒以内に終了することを一般的なブラウザで確認してください。	○	−		点滅を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	点滅を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	点滅を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	点滅を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	点滅を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	点滅を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	点滅を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	点滅を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	点滅を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	点滅を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	点滅を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	2.2.2-項番1-a,1-b
G186	動きのあるコンテンツ、点滅するコンテンツ、又は自動更新されるコンテンツを停止させるコントロールを用いる	A	手動確認	5秒以上動きのあるコンテンツ、点滅するコンテンツ、又は自動更新するコンテンツにおいては、それを停止する手段を提供してあるか確認してください。	×		メイン画像の動きをユーザー側で明示的に一時停止できる機能を追加することを検	メイン画像の変化をコントロールできる機能がない。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	2.2.2-項番1-a,1-b
G191	点滅するコンテンツのないページを読み込むリンク、ボタン、又はその他のメカニズムを提供する	A	手動確認	5秒以上にわたって点滅するコンテンツがある場合、そうしたコンテンツを含まない代替のページを読み込むリンクやボタンなどが提供されていることを確認してください。ただし、代替ページにおいては、オリジナルのページと同等に利用できるものである必要があります。	○	−		点滅を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	点滅を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	点滅を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	点滅を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	点滅を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	点滅を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	点滅を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	点滅を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	点滅を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	点滅を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	点滅を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	2.2.2-項番1-a,1-b
F16	動きが不可欠ではないところにスクロールするコンテンツがあり、そのコンテンツを一時停止及び再開するメカニズムがない	A	問題あり	marqueeが用いられています。（一時停止や再開は出来ないと判断） この問題がある場合はG4を不適合としてください。	○	−		該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	該当コンテンツはないため非適用とする。	
F47	blink要素を用いている	A	問題あり 問題の可能性大	blinkが用いられています。 この問題がある場合はG11を不適合としてください。	○	−		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	
	（達成方法を追加する場合、ここに追加してください。）																		
2.3	**発作を引き起こすようなコンテンツを設計しない。**																		
2.3.1	**3回のせん（閃）光、又はしきい（閾）値以下：** ウェブページには、どの1秒間においても3回を超えるせん（閃）光を放つものがない、又はせん（閃）光が一般せん（閃）光しきい（閾）値及び赤色せん（閃）光しきい（閾）値を下回っている	A																	
G19	どの1秒間においても、コンテンツに3回よりも多く閃光を放つコンポーネントがないことを確認する	A	手動確認	一般的なブラウザで表示し、どの1秒間においても、3回よりも多い閃光が無いことを確認してください。	○	−		閃光を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	閃光を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	閃光を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	閃光を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	閃光を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	閃光を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	閃光を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	閃光を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	閃光を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	閃光を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	閃光を用いた該当コンテンツはないため非適用とする。	2.3.1-項番1-a
G176	閃光を放つエリアを十分に小さくする	A	手動確認	一般的なブラウザで表示し、閃光がある場合、そのエリアが十分小さいエリアであることを確認してください。（十分小さいエリアとはG176にある公式による。）	○	−		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	2.3.1-項番1-a
G15	ツールを用いて、コンテンツが一般閃光閾値及び赤色閃光閾値を越えていないことを確認する	A	手動確認	一般的なブラウザで表示し、閃光が閾値を越えているかどうかを PEATなど利用して評価してください。Photosensitive Epilepsy Analysis Tool (PEAT) http://trace.wisc.edu/peat/	○	−		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	2.3.1-項番1-b
	（達成方法を追加する場合、ここに追加してください。）																		
2.4	**利用者がナビゲートしたり、コンテンツを探し出したり、現在位置を確認したりすることを手助けする手段を提**																		
2.4.1	**ブロックスキップ：** 複数のウェブページ上で繰り返されているコンテンツのブロックをスキップするメカニズムが利用できる	A		追加の補足: 最初にmiCheckerの音声ユーザビリティ視覚化モードで視覚化し、画面に暗い部分（到達に時間のかかる部分）が無いことを確認しても良いでしょう。もし、暗くなる部分がある場合は、適合とは言えない可能性があります。															
G1	メインコンテンツエリアへ直接移動するリンクを各ページの先頭に追加する	A	問題あり 問題の可能性大 要判断箇所 手動確認	ページ内のメインコンテンツにジャンプするためのページ内リンクが先頭部分にありません。繰り返されるブロックが無い場合は該当しません。	×		スティッキーヘッダー（スクロールに追従するグローバルナビゲーション）との相性が悪いため、スティッキーヘッダーの廃止も含めて検討する。	ページ最上部にあるナビゲーション・本文・フッターへのブロックスキップが有効でない。	ページ最上部にあるナビゲーション・本文・フッターへのブロックスキップが有効でない。	ページ最上部にあるナビゲーション・本文・フッターへのブロックスキップが有効でない。	ページ最上部にあるナビゲーション・本文・フッターへのブロックスキップが有効でない。	ページ最上部にあるナビゲーション・本文・フッターへのブロックスキップが有効でない。	ページ最上部にあるナビゲーション・本文・フッターへのブロックスキップが有効でない。	ページ最上部にあるナビゲーション・本文・フッターへのブロックスキップが有効でない。	ページ最上部にあるナビゲーション・本文・フッターへのブロックスキップが有効でない。	ページ最上部にあるナビゲーション・本文・フッターへのブロックスキップが有効でない。	ページ最上部にあるナビゲーション・本文・フッターへのブロックスキップが有効でない。	ページ最上部にあるナビゲーション・本文・フッターへのブロックスキップが有効でない。	2.4.1-項番1
G123	繰り返しているコンテンツのブロックの開始位置に、そのブロックの終了位置へのリンクを追加する	A	問題あり 問題の可能性大 要判断箇所 手動確認	一般的なブラウザで表示し繰り返されるブロック部分を特定し、そのブロックの最初の部分に、終わりの部分へのページ内リンクがあることをmiCheckerの音声ユーザビリティ視覚化モードで確認してください。	×		スティッキーヘッダー（スクロールに追従するグローバルナビゲーション）との相性が悪いため、スティッキーヘッダーの廃止も含めて検討する。	上記達成方法（G1）または、当達成方法のどちらかで対応する必要あり。	上記達成方法（G1）または、当達成方法のどちらかで対応する必要あり。	上記達成方法（G1）または、当達成方法のどちらかで対応する必要あり。	上記達成方法（G1）または、当達成方法のどちらかで対応する必要あり。	上記達成方法（G1）または、当達成方法のどちらかで対応する必要あり。	上記達成方法（G1）または、当達成方法のどちらかで対応する必要あり。	上記達成方法（G1）または、当達成方法のどちらかで対応する必要あり。	上記達成方法（G1）または、当達成方法のどちらかで対応する必要あり。	上記達成方法（G1）または、当達成方法のどちらかで対応する必要あり。	上記達成方法（G1）または、当達成方法のどちらかで対応する必要あり。	上記達成方法（G1）または、当達成方法のどちらかで対応する必要あり。	2.4.1-項番1
G124	ページの先頭に、コンテンツの各エリアへのリンクを追加する	A	問題あり 問題の可能性大 手動確認	繰り返されるブロックが多数ある場合、そのそれぞれにジャンプするためのリンクがページ先頭部分にあるか確認してください。	×		スティッキーヘッダー（スクロールに追従するグローバルナビゲーション）との相性が悪いため、スティッキーヘッダーの廃止も含めて検討する。	リンクはあるが、読み上げられない。	リンクはあるが、読み上げられない。	リンクはあるが、読み上げられない。	リンクはあるが、読み上げられない。	リンクはあるが、読み上げられない。	リンクはあるが、読み上げられない。	リンクはあるが、読み上げられない。	リンクはあるが、読み上げられない。	リンクはあるが、読み上げられない。	リンクはあるが、読み上げられない。	リンクはあるが、読み上げられない。	2.4.1-項番1
H69	コンテンツの各セクションの開始位置に見出し要素を提供する	A	要判断箇所 手動確認	要判断と検出された場合、コンテンツ内で見出しが一つも使われていないか、見出しと思われる箇所に見出しタグが利用されていない可能性があります。本当に見出しが必要のないコンテンツなのか確認してください。それ以外の場合でも、miCheckerの音声ユーザビリティ視覚化モードで見出しの設定状況を確認してください。それぞれのセクションの先頭に、それぞれに対応する見出しのあることを確認します。	○														2.4.1-項番1
H50	構造を示す要素を用いて、リンクをグループ化する	A	手動確認	一般的なブラウザで表示した場合、リンクが多数並ぶような部分がある場合は、その部分にはリストやマップなどが用いられて構造化されていることをmiCheckerの音声ユーザビリティ視覚化モードで確認してください。	○														2.4.1-項番1
H70	フレームを用いて、繰り返されているコンテンツのブロックをグループ化する	A	手動確認	フレームを使用するページにおいて、ページ中に繰り返されるコンテンツがある場合は、フレームを用いてグループ化してください。フレームを用いていないページでは、他の方法でグループ化してください。	○														2.4.1-項番1
H64	frame要素及びiframe要素のtitle属性を用いる	A	問題あり 要判断箇所	問題ありとされた箇所は、frameあるいはiframeにtitle属性がありません。利用者がそのフレームの目的をすぐに知ることができるようにタイトルを与えてください。 それ以外の場合でも、それぞれのタイトルが適切かどうか判断してください。	○														2.4.1-項番1
SCR28	展開可能及び折り畳み可能なメニューを用いて、コンテンツのブロックをバイパスする	A	手動確認	一般的なブラウザで表示し、繰り返されるコンテンツに対して、展開や折りたたみのテクニックが用いられていることを確認してください。	○														2.4.1-項番1
C6	構造を示すマークアップをした上で、コンテンツを配置する	A	手動確認	スタイルシートを適用しなくとも意味の伝わる表現であり、かつ、スタイルシートを使って見栄えをさらに良くする方法であれば適合です。	○														
	（達成方法を追加する場合、ここに追加してください。）																		
2.4.2	**ページタイトル：ウェブページには、主題又は目的を説明したタイトルがある**	A																	
G88	ウェブページに対して、コンテンツの内容が分かるページタイトルを提供する	A	手動確認	ページタイトルの内容が適切かどうか確認してください。	○														2.4.2-項番1
H25	title要素を用いて、ページタイトルを提供する	A	問題あり 問題の可能性大	title要素が使われていません。	○														2.4.2-項番1
	（達成方法を追加する場合、ここに追加してください。）																		
2.4.3	**フォーカス順序：** ウェブページが順を追ってナビゲートできて、そのナビゲーション順が意味又は操作に影響を及ぼす場合、フォーカス可能なコンポーネントは、意味及び操作性を損なわない順序でフォーカスを受け取る	A																	
G59	コンテンツ内の順番及び関係に従った順序で、インタラクティブな要素を配置する	A	手動確認	一般的なブラウザで、TABキーまたは矢印キーを用いて、フォーカスを受け取る要素を移動して、その順序が意味と操作性を保持していることを確認します。これは、評価対象とする技術全てに対して実施します。（Flashなど）	○														2.4.3-項番1
H4	リンク、フォームのコントロール、及びオブジェクトには、論理的なタブ移動順序を作成する	A	手動確認	一般的なブラウザで、TABキー（HTMLコンテンツの場合）または矢印キーを用いて、フォーカスを受け取る要素を移動して、その順序が意味と操作性を保持していることを確認します。これは、評価対象とする技術全てに対して実施します。（Flashなど）	○														2.4.3-項番1
C27	DOMの順序を表示順序と一致させる	A	手動確認	一般的なブラウザで、TABキー（HTMLコンテンツの場合）または矢印キーを用いて、フォーカスを受け取る要素を移動して、その順序が意味と操作性を保持していることを確認します。これは、評価対象とする技術全てに対して実施します。（Flashなど） 加えて、miCheckerの音声ブラウザモードで視覚化を実行してください。（リニアライズされて表示されます。）その状況でも、読み上げ順序などに混乱が発生せずに、リニアライズする前のコンテンツと同じ意味を提供していれば適合です。	○														2.4.3-項番1
SCR26	動的なコンテンツをDOMのそのトリガーとなる要素の直後に挿入する	A	手動確認	動的なコンテンツを追加した場合、それはそのトリガーとなる要素の直後に挿入されていなくてはなりません。（フォーム入力において問題が発見された場合など、それが利用者に検知されるように配慮しなくてはならない）	○														2.4.3-項番2
SCR37	デバイス非依存な方法でカスタム・ダイアログを作成する	A	手動確認	ポップアップでないダイアログを開いた場合、そのまま継続してダイアログについて利用可能なTAB順序にあることを一般的なブラウザで確認してください。	○														2.4.3-項番2
SCR27	DOMを用いて、ページ上にある複数のセクションを並び替える	A	手動確認	ドラックアンドドロップで再配置可能なコンポーネントがある場合、再配置した場合に、それがDOMの中でも再配置されていることを確認してください。確認するためには、それぞれmiCheckerの音声ユーザビリティ視覚化モードで確認します。	○	−		該当するコンテンツがないため非適用とする。	該当するコンテンツがないため非適用とする。	該当するコンテンツがないため非適用とする。	該当するコンテンツがないため非適用とする。	該当するコンテンツがないため非適用とする。	該当するコンテンツがないため非適用とする。	該当するコンテンツがないため非適用とする。	該当するコンテンツがないため非適用とする。	該当するコンテンツがないため非適用とする。	該当するコンテンツがないため非適用とする。	該当するコンテンツがないため非適用とする。	2.4.3-項番2
	（達成方法を追加する場合、ここに追加してください。）																		
2.4.4	**リンクの目的（コンテキスト内）：** それぞれのリンクの目的が、リンクのテキスト単独で判断できるか、又はリンクのテキストとプログラムによる解釈が可能なリンクのコンテキストとから判断できる。ただし、リンクの目的がほとんどの利用者にとって曖昧な場合は除く	A		例外事項の補足: 誰にとっても実際にクリックしてみないと分からず、誰にとってもそれが問題にならないようなケースを意味します。															
G91	リンクの目的を説明したリンクのラベルを提供する	A	問題の可能性大 手動確認	miCheckerの音声ユーザビリティ視覚化を適用した状態で、リンクテキストはリンクの目的を的確に表現しているかどうかを確認してください。	○														2.4.4-項番1
H30	a 要素のリンクの目的を説明するテキストリンクを提供する	A	問題あり 問題の可能性大 要判断箇所	a要素にリンクを説明するテキスト（代替テキストを含む）がありません。適切なテキストを与えて下さい。内容についてはG91で評価してください。	○														2.4.4-項番1
H24	イメージマップの area 要素に代替テキストを提供する	A	問題あり	area要素にリンクを説明するテキストがありません。テキストの内容の適切さはG91で評価してください。	○														2.4.4-項番1
G53	リンクテキストとそれが含まれている文章中のテキストとを組み合わせて、リンクの目的を特定する	A	手動確認	リンクのラベルだけでなく、それが含まれる文章全体でリンクの目的が分かるようになっていれば適合です。リンク部分を追っていき、それだけでは分からない場合は、それを含む文章全体を読んで、それでも理解できない場合には不適合とします。 miCheckerの音声ユーザビリティ視覚化モードで評価するか、音声ブラウザなどを用いて評価してください。	○														2.4.4-項番1
H77	リンクテキストとそれが含まれているリスト項目とを組み合わせて、リンクの目的を特定する	A	手動確認	指摘されたリンク部分は、このリンクのラベルだけではリンクの目的を特定できません。リンクのラベルを変更するか、リスト項目内でテキストに適切な説明を加えるなどしてください。	○														2.4.4-項番1
H78	リンクテキストとそれが含まれているパラグラフとを組み合わせて、リンクの目的を特定する	A	手動確認	指摘されたリンク部分は、このリンクのラベルだけではリンクの目的を特定できません。リンクのラベルを変更するか、そのパラグラフ内でテキストに適切な説明を加えるなどしてください	○														2.4.4-項番1
H79	リンクテキストとそれが含まれているデータセル及び関連づけられた見出しセルとを組み合わせて、リンクの目的を特定する	A	手動確認	指摘されたリンク部分は、このリンクのラベルだけではリンクの目的を特定できません。リンクのラベルを変更するか、関連するデータセルとヘッダーセルで目的が分かるようにしてください。	○														2.4.4-項番1
H80	リンクテキストとその直前にある見出し要素とを組み合わせて、リンクの目的を特定する	A	手動確認	指摘されたリンク部分は、このリンクのラベルだけではリンクの目的を特定できません。リンクのラベルを変更するか、関連する見出しとの関係で目的が分かるようにしてください。	○														2.4.4-項番1
H81	入れ子になったリスト項目にあるリンクテキストとその親のリスト項目とを組み合わせて、リンクの目的を特定する	A	手動確認	指摘されたリンク部分は、このリンクのラベルだけではリンクの目的を特定できません。リンクのラベルを変更するか、入れ子になったリストとの関係で目的が分かるようにしてください。	○														2.4.4-項番1

C7	CSSを用いて、リンクテキストの一部を非表示にする	A	手動確認	リンクのラベルが、CSSを用いて非表示にしている部分も含めると、その目的が明確に分かるようになっていれば適合です。非表示部分を含めても目的が分からない場合は不適合です。miCheckerの音声ユーザビリティ視覚化を適用すると非表示のCSSを表示して確認することができます。	○														2.4.4−項番1
G189	ウェブページの先頭近くに、リンクのラベルを変更するコントロールを提供する	A	手動確認	代替ページ(例えばFlashコンテンツを含まないHTMLのみのコンテンツ)へのリンクがページ先頭付近に用意されている場合は、そのリンクのラベルだけでリンクの目的がわかるようにしてください。 miCheckerの音声ユーザビリティ視覚化を適用し、すべてのリンクを可視化して、ページ先頭部分に該当するリンクが無いか確認してください。(″Flashコンテンツはこちら″とテキストがあるときに、″こちら″だけがリンクの場合は不適合です。)	○	−		(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	
SCR30	スクリプトを用いて、リンクのラベルを変更する	A	手動確認	リンクを展開する仕組みを持つページにおいては、支援技術で閲覧したときにページの先頭近くに、リンクを展開するためのテキストリンクが提供されていること、また、その仕組みが利用できることを確認してください。	○	−		(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	
H33	title属性を用いて、リンクテキストの文言を補足する	A	問題あり 要判断箇所 手動確認	リンクにタイトル属性によるリンクの補足説明が記述されています。 この項目は支援技術がサポートしているかどうかに影響を受けやすい項目です。 title属性をサポートしているブラウザ(IEなど)で、マウスを当てて確認するなどしてください。	○	−		リンクテキストに対するtitle属性を用いていない。	リンクテキストに対するtitle属性を用いていない。	リンクテキストに対するtitle属性を用いていない。	リンクテキストに対するtitle属性を用いていない。	リンクテキストに対するtitle属性を用いていない。	リンクテキストに対するtitle属性を用いていない。	リンクテキストに対するtitle属性を用いていない。	リンクテキストに対するtitle属性を用いていない。	リンクテキストに対するtitle属性を用いていない。	リンクテキストに対するtitle属性を用いていない。	リンクテキストに対するtitle属性を用いていない。	
	(達成方法を追加する場合、ここに追加してください。)																		
2.4.5	**複数の手段:** ウェブページ一式の中で、あるウェブページを見つける複数の手段が利用できる。ただし、ウェブページが一連のプロセスの中の1ステップ又は結果である場合は除く	AA																	
G125	関連するウェブページへナビゲートするリンクを提供する	AA	手動確認	関連するウェブページが存在するにも関わらず、その存在のみを示し、実際のリンクが提供されていない場合には不適合とします。	○														2.4.5
G64	目次を提供する	AA	手動確認	目次があった方が良いにも関わらず、目次が提供されていない。また、目次が提供されていても、その目次から特定の箇所に移動する手段が提供されていない場合は不適合です。	○			当ページにおいては、目次は不要と判断したため非適用とする。	当ページにおいては、目次は不要と判断したため非適用とする。	当ページにおいては、目次は不要と判断したため非適用とする。	当ページにおいては、目次は不要と判断したため非適用とする。	当ページにおいては、目次は不要と判断したため非適用とする。	当ページにおいては、目次は不要と判断したため非適用とする。	当ページにおいては、目次は不要と判断したため非適用とする。	当ページにおいては、目次は不要と判断したため非適用とする。	当ページにおいては、目次は不要と判断したため非適用とする。		当ページにおいては、目次は不要と判断したため非適用とする。	2.4.5
G63	サイトマップを提供する	AA	手動確認	サイトマップが提供されていて、その内容が適切な場合は適合です。	○														2.4.5
G161	検索機能を提供して、利用者がコンテンツを見つけるのを手助けする	AA	手動確認	コンテンツを見つけることを支援する検索機能が提供されていることを確認してください。	○														2.4.5
G126	他の全てのウェブページへのリンク一覧を提供する	AA	手動確認	全てのウェブページへのリンク一覧があったほうが良いにも関わらず、それが提供されていない場合は不適合です。	○	−		サイトの規模からみて、現実的な対応でないため非適用とする。	サイトの規模からみて、現実的な対応でないため非適用とする。	サイトの規模からみて、現実的な対応でないため非適用とする。	サイトの規模からみて、現実的な対応でないため非適用とする。	サイトの規模からみて、現実的な対応でないため非適用とする。	サイトの規模からみて、現実的な対応でないため非適用とする。	サイトの規模からみて、現実的な対応でないため非適用とする。	サイトの規模からみて、現実的な対応でないため非適用とする。	サイトの規模からみて、現実的な対応でないため非適用とする。	サイトの規模からみて、現実的な対応でないため非適用とする。	サイトの規模からみて、現実的な対応でないため非適用とする。	2.4.5
G185	HOMEページからサイト上の全てのウェブページにリンクする	AA	手動確認	HOMEページに全てのページへのリンクがあり、そのリンク先からはHOMEページに戻るリンクがあれば適合です。	○	−		サイトの規模からみて、現実的な対応でないため非適用とする。	サイトの規模からみて、現実的な対応でないため非適用とする。	サイトの規模からみて、現実的な対応でないため非適用とする。	サイトの規模からみて、現実的な対応でないため非適用とする。	サイトの規模からみて、現実的な対応でないため非適用とする。	サイトの規模からみて、現実的な対応でないため非適用とする。	サイトの規模からみて、現実的な対応でないため非適用とする。	サイトの規模からみて、現実的な対応でないため非適用とする。	サイトの規模からみて、現実的な対応でないため非適用とする。	サイトの規模からみて、現実的な対応でないため非適用とする。	サイトの規模からみて、現実的な対応でないため非適用とする。	2.4.5
	(達成方法を追加する場合、ここに追加してください。)																		
2.4.6	**見出し及びラベル:** 見出し及びラベルは、主題又は目的を説明している	AA																	
G130	内容が分かる見出しをつける	AA	要判断箇所	見出しが、そのセクションの内容を適切に表現していれば適合です。	○														2.4.6
G131	目的や内容が分かるラベルを提供する	AA	要判断箇所	以下のいずれかの方法で、目的や内容が分かるラベルが付いていれば適合です。 miCheckerの音声ユーザビリティ視覚化モードで確認してください。 1. データ形式や入力例が提示されている。(G89) 2. フォーム又はテキスト・フィールドの先頭で必要とされるフォーマットに関する説明がある。(G184) 3. 入力項目とラベルの関係が良くわかるように配置されている。(G162) 4. 未入力の必須項目が特定されるように説明テキストを提供する。(G83)	○	−		該当箇所がサイト内検索のため非適用とする。	該当箇所がサイト内検索のため非適用とする。	該当箇所がサイト内検索のため非適用とする。	該当箇所がサイト内検索のため非適用とする。	該当箇所がサイト内検索のため非適用とする。	該当箇所がサイト内検索のため非適用とする。	該当箇所がサイト内検索のため非適用とする。	該当箇所がサイト内検索のため非適用とする。	該当箇所がサイト内検索のため非適用とする。	該当箇所がサイト内検索のため非適用とする。	該当箇所がサイト内検索のため非適用とする。	2.4.6
	(達成方法を追加する場合、ここに追加してください。)																		
2.4.7	**フォーカスの可視化:** キーボード操作が可能なあらゆるユーザインタフェースには、フォーカスインジケータが見える操作モードがある	AA																	
G149	フォーカスを受け取った際に、ユーザーエージェントによって強調されるユーザーインタフェースコンポーネントを用いる	AA	手動確認	tabキーやマウスでフォーカスを移動したとき、その部分が点線で囲まれたり、ハイライトされていれば適合です。どの場所をフォーカスしているのか分からなくなる場合は不適合です。	○														2.4.7
C15	CSSを用いて、ユーザーインタフェースコンポーネントがフォーカスを受けとったときの表示を変更する (CSS)	AA	手動確認	CSSを用いることで、tabキーやマウスでフォーカスを移動したとき、その部分が点線で囲まれたり、ハイライトされていれば適合です。どの場所をフォーカスしているのか分からなくなる場合は不適合です。	○														2.4.7
G165	視認性に優れた標準のフォーカスインジケータが引き継がれるように、プラットフォーム標準のフォーカスインジケータを用いる	AA	手動確認	フォーカスがあたっていることを示す方法が、OSで提供される標準的なものを利用していれば適合です。OS側で表現方法など変えられる場合は、変更し反映されるか確認してください。	○														2.4.7
G195	コンテンツ制作者が提供する視認性に優れたフォーカスインジケータを用いる	AA	手動確認	フォーカスがあたっていることを示す方法が、コンテンツ制作者が提供するものである場合、それが優れたものであることを確認してください。	○														2.4.7
SCR31	スクリプトを用いて、フォーカスのある要素の背景色又はボーダーを変更する (Scripting)	AA	手動確認	スクリプトを用いることで、tabキーやマウスでフォーカスを移動したとき、その部分が点線で囲まれたり、ハイライトされていれば適合です。どの場所をフォーカスしているのか分からなくなる場合は不適合です。	○														2.4.7
	(達成方法を追加する場合、ここに追加してください。)																		
3	**理解可能**																		
3.1	**テキストのコンテンツを読みやすく理解可能にする。**																		
3.1.1	**ページの言語:** それぞれのウェブページのデフォルトの自然言語がどの言語であるか、プログラムによる解釈が可能である	A																	
H57	html要素の言語属性を用いる	A	問題あり 要判断箇所	問題ありと判定された場合は、html 要素中でlang属性を指定してください。指定にあたっては、BCP47に従っていることを確認してください。 それ以外の場合でも、正しい言語が指定されているか確認してください。miCheckerや一般的なブラウザでソースを開いて確認します。	○			<html lang=″ja″>の指定が正しいことを確認。	<html lang=″ja″>の指定が正しいことを確認。	<html lang=″ja″>の指定が正しいことを確認。	<html lang=″ja″>の指定が正しいことを確認。	<html lang=″ja″>の指定が正しいことを確認。	<html lang=″ja″>の指定が正しいことを確認。	<html lang=″ja″>の指定が正しいことを確認。	<html lang=″ja″>の指定が正しいことを確認。	<html lang=″ja″>の指定が正しいことを確認。	<html lang=″ja″>の指定が正しいことを確認。	<html lang=″ja″>の指定が正しいことを確認。	3.1.1−項番1
	(達成方法を追加する場合、ここに追加してください。)																		
3.1.2	**一部分の言語:** コンテンツの一節、又は語句それぞれの自然言語がどの言語であるか、プログラムによる解釈が可能である。ただし、固有名詞、技術用語、言語が不明な語句、及びすぐ前後にあるテキストの言語の一部になっている単語又は語句は除く	AA																	
H58	言語属性を用いて、自然言語の変更を指定する (HTML)	AA	手動確認	評価するページに、そのページのデフォルトの言語と異なる言語を使って表現しているコンテンツ部分があれば、使われている言語が適切にlang属性によって与えられていることを確認してください。miCheckerでソースコードを表示して確認すると良いでしょう。	○	−		該当するコンテンツはないため非適用とする。	該当するコンテンツはないため非適用とする。	該当するコンテンツはないため非適用とする。	該当するコンテンツはないため非適用とする。	該当するコンテンツはないため非適用とする。	該当するコンテンツはないため非適用とする。	該当するコンテンツはないため非適用とする。	該当するコンテンツはないため非適用とする。	該当するコンテンツはないため非適用とする。	該当するコンテンツはないため非適用とする。	該当するコンテンツはないため非適用とする。	3.1.2
	(達成方法を追加する場合、ここに追加してください。)																		
3.2	**ウェブページの表示及び挙動を予測可能にする。**																		
3.2.1	**フォーカス時:** いずれのコンポーネントも、フォーカスを受け取ったときにコンテキストの変化を引き起こさない	A																	
G107	状況の変化に対するトリガーとして、″focus″ ではなく、″activate″ を用いる	A	手動確認	TABキーとカーソルキーでページ内を巡回してください。その結果、勝手にフォームを送信したり、新しいウィンドウを開いたり、他のコンポーネントにフォーカスを移動してしまうような、予期せぬ状況の変化が起きる場合は不適合としてください。focusがトリガーとして使われている場合は、activateを使用してください。	○														3.2.1−項番1
	(達成方法を追加する場合、ここに追加してください。)																		
3.2.2	**入力時:** ユーザインタフェース コンポーネントの設定を変更することが、コンテキストの変化を自動的に引き起こさない。ただし、利用者が使用する前にその挙動を知らせてある場合を除く	A		例外事項の補足: 例えば、電話番号を市外局番、局番、番号の三つに分けて入力するとき、市外局番を入れると、自動的に局番の入力欄に移動することが、事前に伝えられていれば例外として処理してかまいません。															
G80	状況の変化を開始する実行ボタンを提供する	A	要判断箇所	データ入力又はフォーム・コントロールがある場合、submitボタン、あるいはselect要素とともに実行を指示するボタンが用いられていることを確認してください。	○														3.2.2−項番1
H32	実行ボタンを提供する	A	問題の可能性大	データ入力又はフォーム・コントロールが使われているのにも関わらず、submitボタンがありません。	○														3.2.2−項番1
H84	select要素とボタンを併用して、アクションを実行するようにする	A	要判断箇所	select要素の選択肢のいずれかを選択したときに、何のアクションも実行されないことを確認してください。また、アクションを実行するためのボタンがあることを確認して	○														3.2.2−項番1
G13	状況の変化を引き起こすフォームのコントロールが変化する前に、何が起こるのかを説明する	A	要判断箇所	G80が適合の場合は、非適用です。G80が不適合になる場合は、それ以前に、どのような事が発生するのかについて説明があることをmiCheckerの音声ユーザビリティ視覚化モードで確認してください。説明があれば適合です。無ければ不適合です。	○	−		G80が適合のため。	G80が適合のため。	G80が適合のため。	G80が適合のため。	G80が適合のため。	G80が適合のため。	G80が適合のため。	G80が適合のため。	G80が適合のため。	G80が適合のため。	G80が適合のため。	3.2.2−項番1
	(達成方法を追加する場合、ここに追加してください。)																		
3.2.3	**一貫したナビゲーション:** ウェブページ一式の中にある複数のウェブページ上で繰り返されているナビゲーションのメカニズムは、繰り返されるたびに相対的に同じ順序で出現する。ただし、利用者が変更した場合は除く	AA		追加の補足: 達成方法は、ウェブサイトの全体的なデザインを決めるときに既に検討され、デザインガイドなどにまとめられていると良いでしょう。試験する人は、それを頼りにその方針が適切に実現されているかを確認すると効率よく試験できます。															
G61	繰り返されるコンポーネントが表示されるたびに、それを相対的に同じ順序で提示する	AA	手動確認	繰り返されるコンポーネントとして定義している部分が、常に同じ順序で提供されているかどうかを確認してください。一貫性を無視して入れ替わったりしているような場合は不適合です。	○														3.2.3
	(達成方法を追加する場合、ここに追加してください。)																		
3.2.4	**一貫した識別性:** ウェブページ一式の中で同じ機能をもつコンポーネントは、一貫して識別できる	AA		追加の補足: 達成方法は、ウェブサイトの全体的なデザインを決めるときに既に検討され、デザインガイドなどにまとめられていると良いでしょう。試験する人は、それを頼りにその方針が適切に実現されているかを確認すると効率よく試験できます。															
G197	同じ機能を有するコンテンツに対して、一貫したラベル、識別名及び代替テキストを用いる	AA	手動確認	各コンポーネントを特定するために与えられているテキスト(ラベル、識別名、代替テキストなど)をmiCheckerで確認し、それが同じコンポーネントには、同じテキストが与えられていることを確認しください。	○														3.2.4
	(達成方法を追加する場合、ここに追加してください。)																		
3.3	**利用者の間違いを防ぎ、修正を支援する。**																		
3.3.1	**エラーの特定:** 入力エラーが自動的に検出された場合は、エラーとなっている箇所が特定され、そのエラーが利用者にテキストで説明される	A																	
G83	入力が完了していない必須項目を特定するために、テキストの説明文を提供する	A	要判断箇所 手動確認	一般的なブラウザあるいは支援技術を用いて、フォームのあるページで、必須項目を入力せずに送信します。もし、入力されていない必須項目部分が、テキストによる説明文で提供されれば適合です。エラーがあることのみ分かっても、エラー場所が分からない場合は不適合です。	○	−		該当箇所がサイト内検索のため非適用とする。	該当箇所がサイト内検索のため非適用とする。	該当箇所がサイト内検索のため非適用とする。	該当箇所がサイト内検索のため非適用とする。	該当箇所がサイト内検索のため非適用とする。	該当箇所がサイト内検索のため非適用とする。	該当箇所がサイト内検索のため非適用とする。	該当箇所がサイト内検索のため非適用とする。	該当箇所がサイト内検索のため非適用とする。	該当箇所がサイト内検索のため非適用とする。	該当箇所がサイト内検索のため非適用とする。	3.3.1−状況A−項番1
SCR18	クライアントサイドのバリデーション及びアラートを提供する	A	要判断箇所 手動確認	一般的なブラウザで、フォームのあるページにおいて、入力にエラーを含むと判断される場合には、それがアラートとして提供されます。この処理がクライアント側で行われていれば適合です。	○	−		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	3.3.1−状況A−項番1, 状況B−項番1
G84	利用者が認められた値以外の情報を提供した際に、テキストの説明文を提供する	A	要判断箇所 手動確認	一般的なブラウザで、フォームのあるページにおいて、認められた値以外の値を入力し送信します。もし、そのエラーについてテキストによる説明が提供されれば適合です。	○	−		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	3.3.1−状況B−項番1
G85	利用者の入力が要求されたフォーマット又は値ではなかった際に、テキストの説明文を提供する	A	要判断箇所	一般的なブラウザで、フォームのあるページにおいて、認められたフォーマットではないフォーマットで値を入力し送信します。もし、そのエラーについてテキストによる	○	−		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	3.3.1−状況B−項

		A	手動確認	説明が提供されれば適合です。	○														番1
SCR32	クライアントサイドのバリデーションを提供し、DOMを介してエラーテキストを追加する	A	要判断箇所 手動確認	一般的なブラウザで、フォームのあるページにおいて、入力にエラーを含むと判断される場合には、それを示すエラーテキストがコンテンツに挿入されていることを確認してください。かつ、この処理がクライアント側で行われていれば適合です。	○	-		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	3.3.1-状況B-項番1
	(達成方法を追加する場合、ここに追加してください。)																		
3.3.2	**ラベル又は説明:** コンテンツが利用者の入力を要求する場合は、ラベル又は説明文が提供されている	A																	
G131	目的や内容が分かるラベルを提供する	A	要判断箇所	以下のいずれかの方法で、目的や内容が分かるラベルが付いていれば適合です。miCheckerの音声ユーザビリティ視覚化モードで確認してください。 1. データ形式や入力例が提示されている。(G89) 2. フォーム又はテキスト・フィールドの先頭で必要とされるフォーマットに関する説明がある。(G184) 3. 入力項目とラベルの関係が良くわかるように配置されている。(G162) 4. 未入力の必須項目が特定されるように説明テキストを提供する。(G83)	○	-		該当箇所がサイト内検索のため非適用とする。	該当箇所がサイト内検索のため非適用とする。	該当箇所がサイト内検索のため非適用とする。	該当箇所がサイト内検索のため非適用とする。	該当箇所がサイト内検索のため非適用とする。	該当箇所がサイト内検索のため非適用とする。	該当箇所がサイト内検索のため非適用とする。	該当箇所がサイト内検索のため非適用とする。	該当箇所がサイト内検索のため非適用とする。	該当箇所がサイト内検索のため非適用とする。	該当箇所がサイト内検索のため非適用とする。	3.3.2-項番1
G89	所定のデータ・フォーマット及び入力例を提供する	A	要判断箇所	miCheckerの音声ユーザビリティ視覚化モードで見たとき、データ形式や入力例が提示されています。	○	-		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	3.3.2-項番1
G184	フォーム又はテキスト・フィールド一式の先頭に、必要とされる入力フォーマットを説明するテキストの説明文を提供する	A	要判断箇所	miCheckerの音声ユーザビリティ視覚化モードで見たとき、フォーム又はテキスト・フィールドの先頭で必要とされるフォーマットに関する説明が提示されているか確認してください。	○	-													3.3.2-項番1
G162	ラベルを配置して、関係性を最大限に予測できるようにする	A	問題の可能性大	要判断と指摘された箇所は、ラベルが、チェックボックスやラジオボタンの直後に配置されていません。あるいは、それ以外のコントロールにおいて、直前に配置されていない可能性があります。全てのラベルについて、分かりやすい位置に配置されているか確認してください。 それ以外の場合でも、ラベルの位置が適切かどうかを判定してください。良い方法は音声ブラウザなどの支援技術で聞き進め、チェックボックスやテキストボックスが現れた際、それが何のためのコントロールであるのかが、さらに聞き進めないと分からないような場合は、不適合と判断されます。聞き進めた後に、一度、戻る必要が出てくるからです。	○			同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	3.3.2-項番1
G83	入力が完了していない必須項目を特定するために、テキストの説明文を提供する	A	要判断箇所 手動確認	一般的なブラウザあるいは支援技術を用いて、フォームのあるページで、必須項目を入力せずに送信します。もし、入力されていない必須項目部分が、テキストによる説明文で提供されれば適合です。エラーがあることのみ分かっても、エラー場所が分からない場合は不適合です。	○	-		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	3.3.2-項番1
H44	label要素を用いて、テキストのラベルとフォーム・コントロールを関連付ける	A	問題あり 問題の可能性大 要判断箇所	フォーム・コントロールがテキストのラベルと関連付けられていません。ラベルの使用が困難なフォーム・コントロールがある場合はH65に従います。	○														3.3.2-項番2-a
H65	label要素を用いることができないとき、title属性を用いてフォーム・コントロールを特定する	A	問題あり 要判断箇所	ラベルに相当するものが画面に表示されていない場合、あるいは、郵便番号のようにフォーム・コントロールが連続しているためlabel要素を用いることができない場合は、title属性を用いてフォーム・コントールを特定します。H44に従うことが可能な場合は、H44を優先します。	○														3.3.2-項番2-b
H71	fieldset 要素及び legend 要素を用いて、フォーム・コントロールのグループに関する説明を提供する	A	問題あり 要判断箇所	フォームのコントロールがあるグループを形成している場合は、fieldset 要素及び legend 要素を用いて、フォーム・コントロールのグループに関する説明を提供してください。(ソースレベルで確認してください。) input type="text" でもグループを形成しているときは、同様に確認してください。	○	-		フォームのコントロールがあるグループを形成している箇所はないため非適用とする。	フォームのコントロールがあるグループを形成している箇所はないため非適用とする。	フォームのコントロールがあるグループを形成している箇所はないため非適用とする。	フォームのコントロールがあるグループを形成している箇所はないため非適用とする。	フォームのコントロールがあるグループを形成している箇所はないため非適用とする。	フォームのコントロールがあるグループを形成している箇所はないため非適用とする。	フォームのコントロールがあるグループを形成している箇所はないため非適用とする。	フォームのコントロールがあるグループを形成している箇所はないため非適用とする。	フォームのコントロールがあるグループを形成している箇所はないため非適用とする。	フォームのコントロールがあるグループを形成している箇所はないため非適用とする。	フォームのコントロールがあるグループを形成している箇所はないため非適用とする。	3.3.2-項番3
G167	隣接するボタンを用いて、テキスト・フィールドの目的をラベル付けする	A	要判断箇所	ラベルを用いることがどうしても出来ない場合は、隣接するボタンを用いて、テキスト・フィールドの目的をラベル付けしていれば適合です。これは、miCheckerの音声ユーザビリティ視覚化モードで確認するこしができます。	○														3.3.2-項番4
	(達成方法を追加する場合、ここに追加してください。)																		
3.3.3	**エラー修正の提案:** 入力エラーが自動的に検出され、修正方法を提案できる場合、その提案が利用者に提示される。ただし、セキュリティ又はコンテンツの目的を損なう場合は除く	AA		追加の補足: 達成方法は、ウェブサイトの全体的なデザインを決めるときに既に検討され、デザインガイドなどにまとめられていると良いでしょう。試験する人は、それを頼りにその方針が適切に実現されているかを確認すると効率よく試験できます。															
G83	入力が完了していない必須項目を特定するために、テキストの説明文を提供する	AA	要判断箇所 手動確認	一般的なブラウザあるいは支援技術を用いて、フォームのあるページで、必須項目を入力せずに送信します。もし、入力されていない必須項目部分が、テキストによる説明文で提供されれば適合です。エラーがあることのみ分かっても、エラー場所が分からない場合は不適合です。	○	-		該当箇所がサイト内検索のため(エラーが発生しないため)非適用とする。	該当箇所がサイト内検索のため(エラーが発生しないため)非適用とする。	該当箇所がサイト内検索のため(エラーが発生しないため)非適用とする。	該当箇所がサイト内検索のため(エラーが発生しないため)非適用とする。	該当箇所がサイト内検索のため(エラーが発生しないため)非適用とする。	該当箇所がサイト内検索のため(エラーが発生しないため)非適用とする。	該当箇所がサイト内検索のため(エラーが発生しないため)非適用とする。	該当箇所がサイト内検索のため(エラーが発生しないため)非適用とする。	該当箇所がサイト内検索のため(エラーが発生しないため)非適用とする。	該当箇所がサイト内検索のため(エラーが発生しないため)非適用とする。	該当箇所がサイト内検索のため(エラーが発生しないため)非適用とする。	3.3.3
G85	利用者の入力が要求されたフォーマット又は値ではなかった際に、テキストの説明文を提供する	AA	要判断箇所 手動確認	一般的なブラウザで、フォームのあるページにおいて、認められたフォーマットではないフォーマットで値を入力し送信します。もし、そのエラーについてテキストによる説明が提供されれば適合です。	○	-		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	3.3.3
G177	テキストの修正候補を提示する	AA	手動確認	サポートするブラウザで、フォームに意図的に誤ったテキストを入力します。エラーとなったとき、それに対して修正候補を提供することが可能だと推測される場合、それ	○	-		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	3.3.3
SCR18	クライアントサイドのバリデーション及びアラートを提供する	AA	要判断箇所 手動確認	一般的なブラウザで、フォームのあるページにおいて、入力にエラーを含むと判断される場合には、それがアラートとして提供されます。この処理がクライアント側で行われていれば適合です。	○	-		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	3.3.3
SCR32	クライアントサイドのバリデーションを提供し、DOMを介してエラーテキストを追加する	AA	要判断箇所 手動確認	一般的なブラウザで、フォームのあるページにおいて、入力にエラーを含むと判断される場合には、それを示すエラーテキストがコンテンツに挿入されていることを確認してください。かつ、この処理がクライアント側で行われていれば適合です。	○	-		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	3.3.3
G84	利用者が認められた値以外の情報を提供した際に、テキストの説明文を提供する	AA	要判断箇所 手動確認	一般的なブラウザで、フォームのあるページにおいて、認められた値以外の値を入力し送信します。もし、そのエラーについてテキストによる説明が提供されれば適合です。	○	-		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	3.3.3
	(達成方法を追加する場合、ここに追加してください。)																		
3.3.4	**エラー回避(法的、金融及びデータ):** 利用者にとって法律行為若しくは金融取引が生じる、利用者が制御可能なデータストレージシステム上のデータを変更若しくは削除する、又は利用者が試験の解答を送信するウェブページでは、次に示す事項のうち、少なくとも一つを満たしている: a)取消、b)チェック、c)確認	AA		追加の補足: 法的な義務や金銭的な取引が行われる場合、ここで評価する達成方法は、ウェブサイトの全体的なデザインを決めるときに既に検討され、デザインガイドなどにまとめられていると良いでしょう。試験する人は、それを頼りにその方針が適切に実現されているかを確認すると効率よく試験できます。															
G164	フォームの送信後に、利用者が注文を変更又はキャンセルできる一定の時間を提供する	AA	手動確認	注文など法的な義務あるいは金銭的な義務が発生するような仕組みがある場合、注文の変更あるいはキャンセルすることが可能な期間と、その方法が提供されていることを確認してください。適切に提供されていれば適合です。	○	-		法的な義務や金銭的な取引が行われるケースはないため非適用とする。	法的な義務や金銭的な取引が行われるケースはないため非適用とする。	法的な義務や金銭的な取引が行われるケースはないため非適用とする。	法的な義務や金銭的な取引が行われるケースはないため非適用とする。	法的な義務や金銭的な取引が行われるケースはないため非適用とする。	法的な義務や金銭的な取引が行われるケースはないため非適用とする。	法的な義務や金銭的な取引が行われるケースはないため非適用とする。	法的な義務や金銭的な取引が行われるケースはないため非適用とする。	法的な義務や金銭的な取引が行われるケースはないため非適用とする。	法的な義務や金銭的な取引が行われるケースはないため非適用とする。	法的な義務や金銭的な取引が行われるケースはないため非適用とする。	3.3.4
G98	送信する前に、利用者が回答を確認及び修正できるようにする	AA	手動確認	複数のステップで進む、アンケート、注文、試験などの入力結果を送信するタイミングでは、その内容を確認したり、修正したりすることが可能であることを確認してください。もし、確認する手段が無かったり、修正するのに、最初から再度入力しなくてはならないような場合は不適合です。	○	-		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	3.3.4
G155	送信ボタンに加えてチェックボックスを提供する	AA	手動確認	ユーザの確認が必要な段階では、送信ボタンに加え、チェックボックスが用意してあり、そのチェックボックスにチェックが無いと受け付けない仕組みがあれば適合です。	○	-		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	3.3.4
G99	消去した情報を元に戻せるようにする	AA	手動確認	消去した情報を元に戻すことができる手段が適切に用意されているか確認してください。さらに、それが正しく機能するかどうか確認してください。	○	-		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	3.3.4
G168	選択されたアクションを続行するために確認を求める	AA	手動確認	実行してしまうと変更が不可能なアクションがある場合、そのアクションの前に実行することに対する確認(例えば、売買が成立すること、全ての予約がキャンセルされてしまうことなどの重大な事項)の要求があることを確認してください。	○	-		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	3.3.4
	(達成方法を追加する場合、ここに追加してください。)																		
4	**堅ろう(牢)(Robust)**																		
4.1	**現在及び将来の、支援技術を含むユーザエージェントとの互換性を最大にする。**																		
4.1.1	**構文解析:** マークアップ言語を用いて実装されているコンテンツにおいては、要素には完全な開始タグ及び終了タグがあり、要素は仕様に従って入れ子になっていて、要素には重複した属性がなく、どのIDも一意的である。ただし、仕様で認められているものを除く	A																	
G134	ウェブページをバリデートする	A	手動確認	W3Cの「The W3C Markup Validation Service」(http://validator.w3.org/)などを利用してウェブページをバリデートしてください。	○														4.1.1-項番1
G192	仕様に完全に準拠する	A	手動確認	用いている技術については、仕様に準拠していることを確認して下さい。 W3Cの「The W3C Markup Validation Service」(http://validator.w3.org/)など利用してウェブページをバリデートしてください。	○														4.1.1-項番1
H88	仕様に準じてHTMLを用いる	A	問題あり 問題の可能性大 要判断箇所 手動確認	HTML技術については、仕様に準拠していることを確認して下さい。 W3Cの「The W3C Markup Validation Service」(http://validator.w3.org/)など利用してウェブページをバリデートしてください。	○														4.1.1-項番1
H74	開始タグ及び終了タグを仕様に準じて用いていることを確認する	A	手動確認	W3Cの「The W3C Markup Validation Service」(http://validator.w3.org/)など利用して、開始タグと終了タグが適切に対をなしているかどうかを確認してください。	○														4.1.1-項番1
H75	ウェブページが well-formed であることを確認する	A	手動確認	W3Cの「The W3C Markup Validation Service」(http://validator.w3.org/)など利用して、開始タグと終了タグが適切に対をなしているかなど、XMLの仕様がもとめるwell-formed な形式(整形式)になっているかどうかを確認してください。	○														4.1.1-項番1
H93	ウェブページで使われるid属性はユニークなものであることを確認する	A	問題あり 手動確認	該当箇所についてソースを開いて確認してください。全てのidは個別のものである必要があります。	○			(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	
H94	要素の中に重複した属性を含まないことを確認する	A	手動確認	W3Cの「The W3C Markup Validation Service」(http://validator.w3.org/)など利用して、一つの要素に同じ属性が複数回含まれていないことを確認してください。	○			(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	(WAIC実装チェックリスト例には入っていない)	
	(達成方法を追加する場合、ここに追加してください。)																		
4.1.2	**名前(name)、役割(role)及び値(value):** 全てのユーザインタフェース コンポーネント(フォームを構成する要素、リンク、スクリプトが生成するコンポーネントなど)では、名前(name)及び役割(role)は、プログラムによる解釈が可能である。また、状態、プロパティ及び利用者が設定可能な値はプログラムによる設定が可能である。そして、支援技術を含むユーザエージェントが、これらの項目に対する変更通知を利用できる	A																	
G108	マークアップを用いて、名前及び役割をUAに提供し、利用者が設定可能なプロパティを直接設定可能にし、変化を通知する	A	手動確認	それぞれのユーザーインタフェースの構成要素に対して、識別名と役割を決定することができるように適切にマークアップされていることを確認してください。miCheckerを使う場合には、各構成要素の上にマウスを当てることで内容を評価することが出来ます。また、入力を受け取るユーザーインターフェース要素については、実際に支援技術を使って入力が可能なことを確認してください。	○														4.1.2-項番1-a
H91	HTMLのフォーム・コントロール及びリンクを用いる	A	手動確認	支援技術を利用して、操作することのできないリンクやコントロール部分が無いか確認してください。キーボードで移動ができても、音声ブラウザで読み上げることができないような部分がある場合は不適合です。	×		スティッキーヘッダー(スクロールに追従するグローバルナビゲーション)との相性が悪いため、スティッキーヘッダーの廃止も含めて検討する。	ページ最上部にあるナビゲーション・本文・フッターへのブロックスキップが有効でない。	ページ最上部にあるナビゲーション・本文・フッターへのブロックスキップが有効でない。	ページ最上部にあるナビゲーション・本文・フッターへのブロックスキップが有効でない。	ページ最上部にあるナビゲーション・本文・フッターへのブロックスキップが有効でない。	ページ最上部にあるナビゲーション・本文・フッターへのブロックスキップが有効でない。	ページ最上部にあるナビゲーション・本文・フッターへのブロックスキップが有効でない。	ページ最上部にあるナビゲーション・本文・フッターへのブロックスキップが有効でない。	ページ最上部にあるナビゲーション・本文・フッターへのブロックスキップが有効でない。	ページ最上部にあるナビゲーション・本文・フッターへのブロックスキップが有効でない。	ページ最上部にあるナビゲーション・本文・フッターへのブロックスキップが有効でない。	ページ最上部にあるナビゲーション・本文・フッターへのブロックスキップが有効でない。	4.1.2-項番1-a
H44	label要素を用いて、テキストのラベルとフォーム・コントロールを関連付ける	A	問題あり 問題の可能性大	フォーム・コントロールがテキストのラベルと関連付けられていません。ラベルの使用が困難なフォーム・コントロールがある場合はH65に従います。	○														4.1.2-項番1-a

			要判断箇																
H64	frame要素及びiframe要素のtitle属性を用いる	A	問題あり 要判断箇所	問題ありとされた箇所は、frameあるいはiframeにtitle属性がありません。利用者がそのフレームの目的をすぐに知ることができるようにタイトルを与えてください。 それ以外の場合でも、それぞれのタイトルが適切かどうか判断してください。	○														4.1.2-項番1-a
H65	label要素を用いることができないとき、title属性を用いてフォーム・コントロールを特定する	A	問題あり 要判断箇所	ラベルに相当するものが画面に表示されていない場合、あるいは、郵便番号のようにフォーム・コントロールが連続しているためlabel要素を用いることができない場合は、title属性を用いてフォーム・コントロールを特定します。H44に従うことが可能な場合は、H44を優先します。	○														4.1.2-項番1-a
H88	仕様に準じてHTMLを用いる	A	問題あり 問題の可能性大 要判断箇 手動確認	HTML技術については、仕様に準拠していることを確認して下さい。 W3Cの「The W3C Markup Validation Service」(http://validator.w3.org/)など利用してウェブページをバリデートしてください。	○														4.1.2-項番1-a
G135	ウェブコンテンツ技術のアクセシビリティAPIを用いて、名前及び役割をUAに提供し、利用者が設定可能なプロパティを直接設定可能にし、変化を通知する	A	手動確認	マークアップ言語ではないウェブ技術を利用する場合は、その技術のAPIを通じて、名前及び役割を利用者に提供できること、また、設定可能なプロパティを利用者が設定できることを確認してください。また、変化があったとき、通知することを確認してください。 例えば、アプレットを作るのにJavaを使用しているような場合は、Java Swingオブジェクト(プッシュボタンなど)を使用しプロパティに名前など記述することで、支援技術から名前を参照することが出来るようにします。	○														4.1.2-項番1-b
G10	識別名及び役割を取得し、利用者が設定可能なプロパティを直接設定可能にし、変化を通知するためにユーザーエージェントが動作する、プラットフォームのアクセシビリティAPI機能をサポートするウェブコンテンツ技術を用いて、コンポーネントを作成する	A	手動確認	スクリプトやプログラム技術を用いたコンポーネントを使用する場合には、それらのコンポーネントがアクセシビリティ機能をサポートするものであることを確認して下さい。	○														4.1.2-項番1-b
SCR21	DOM(ドキュメント・オブジェクト・モデル)を用いて、ページにコンテンツを追加する	A	手動確認	ページにコンテンツを追加する場合はDOMを用いてください。document.write()、innerHTML、outerHTML、innerTextあるいはouterTextは使わないでください。	○														4.1.2-項番2
	(達成方法を追加する場合、ここに追加してください。)																		

引用元

達成基準	http://waic.jp/docs/UNDERSTANDING-WCAG20/	達成基準は、「Understanding WCAG 2.0」(英語:2010年3月27日時点での最新のEditor's Draft)を情報通信アクセス協議会「ウェブアクセシビリティ作業部会」が翻訳と修正をおこなって公開しているもの及び、JIS X 8341-3:2016 から引用しています。
達成方法	http://waic.jp/docs/WCAG-TECHS/	達成方法(翻訳上は「実装方法」となっている)は、「Techniques for WCAG 2.0」(英語:2008年12月11日公開)を情報通信アクセス協議会「ウェブアクセシビリティ基盤委員会(WAIC) 実装ワーキンググループ(WG2)」が翻訳と修正をおこなって公開しているものから引用しています。

アクセシビリティ・サポーテッド(AS)情報は、使用するウェブコンテンツ技術の達成方法が達成基準を満たすことができるかどうかを確認するために使います。

AS情報・検証結果	http://waic.jp/docs/as/	それぞれの達成方法がアクセシビリティ・サポーテッドであるかどうか、つまり達成基準を満たすことのできる達成方法であるかどうかを判断するための参考資料として、WAIC WG2が公開しているもの。
解説	http://waic.jp/docs/UNDERSTANDING-WCAG20/conformance.html#uc-accessibility-support-head	[アクセシビリティ・サポートを理解する」(WCAG 2.0解説書におけるアクセシビリティ・サポートの解説)

問題のタイプが「問題あり」の達成方法については、miCheckerが何も検出しなければ適合と見なします。

＊注1 WAICから公開されている実装チェックリストの例(2012年11月版)は、JIS X 8341-3:2010 を対象に作成されており、達成基準の各項番の前に「7」がついています。このため、達成基準1.1.1であれば、対応する7.1.1.1 を参照する必要があります。
実装チェックリストの例の更新にあわせ、miCheckerのワークシートも更新される予定です。